

EDIサービス
<IE/EX>
<国際IE>

Expedite™ Baseシリーズ

プログラミング・コマンド解説書 (第1版)

EDI Services

Expedite Base シリーズ

プログラミング・コマンド解説書

(第1版)

GXS株式会社

東京都港区赤坂1 - 1 1 - 4 4

目次

EDIサービス	1
EXPEDITE BASEシリーズによる基本的なファイルの使用方法.....	2
プロファイル・コマンド	3
DIALコマンド (WIN, AIX) 4	
IDENTIFYコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	11
SESSIONコマンド (WIN, AIX)	14
SNACOMMコマンド (AIX, MVS, 400)	16
TCPCOMMコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	17
TRACEコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	19
TRANSMITコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	21
メッセージ・コマンド	25
ARCHIVEMOVEコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	25
AUDITコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	26
CANCELコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	30
COMMITコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	33
DEFINEALIASコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	34
ENDコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	38
GETMEMBERコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	39
LISTコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	43
LISTLIBRARIESコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	46
LISTMEMBERSコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	47
LISTVERIFYコマンド (MVS, 400)	48
MSGINFOコマンド (MVS, 400)	51
PURGEコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	52
PUTMEMBERコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	53
QUERYコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	58
RECEIVEコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	59
RECEIVEEDIコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	68
RECEIVESTREAMコマンド (MVS, 400)	74
SENDコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	77
SENDEDIコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	84
SENDSTREAMコマンド (MVS, 400)	90
SESSIONINFOコマンド (MVS, 400)	95
STARTコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)	96
TESTMSGコマンド (MVS, 400)	98

まえがき

本書は、下記のガイド（英文）のコマンド部分をベースに翻訳したものです。

- Expedite Base For Windows Programming Guide V4.6 (GC34-2253)
- Expedite Base / AIX For RISC System/6000 Programming Guide V4.5 (GC34-3280)
- Expedite Base / MVS Programming Guide V4.5 (GC34-2204)
- Expedite Base / 400 Programming Guide V4.5 (GC34-2254)

< I E / E X > では、本書以外の設定を必要とする場合があります。また、その製品、サービスの改良その他により適宜変更されることがあります。

各コマンドの詳細技術情報は、関連マニュアルを参照のほか弊社 EDI 営業担当者のお問い合わせ下さい。

対象読者

本書は、EDI サービスおよびネットワークの知識を持つシステムエンジニア、またはプログラム作成者の方を対象としています。その他オペレーティングシステムについての基本的な知識も必要とします。

第1版 2006年5月 Expedite Baseシリーズ プログラミング・コマンド解説書

(c) 2006 GXS, Inc. All rights reserved.

Expedite は、GXS, Inc.の商標です
Windows は Microsoft Corporation の商標です。
AIX は IBM Corporation の商標です。
AS/400 は IBM Corporation の登録商標です。

EDIサービス

EDIサービス<IE/EX>、<国際IE>（本書では以下IE/EXと記述）は、海外を含む遠隔地に設置されたお客様の端末やコンピュータ・システムをAT&T MDNS（本書では以下NMSと記述）を介して接続し、ビジネス情報等の種々の情報の交換を迅速かつ簡便に行うための情報蓄積交換機能を提供します。

IE/EXサービスは通信手段の異なるコンピュータ・システムや端末間での情報交換を可能にする各種の通信インターフェースを提供します。

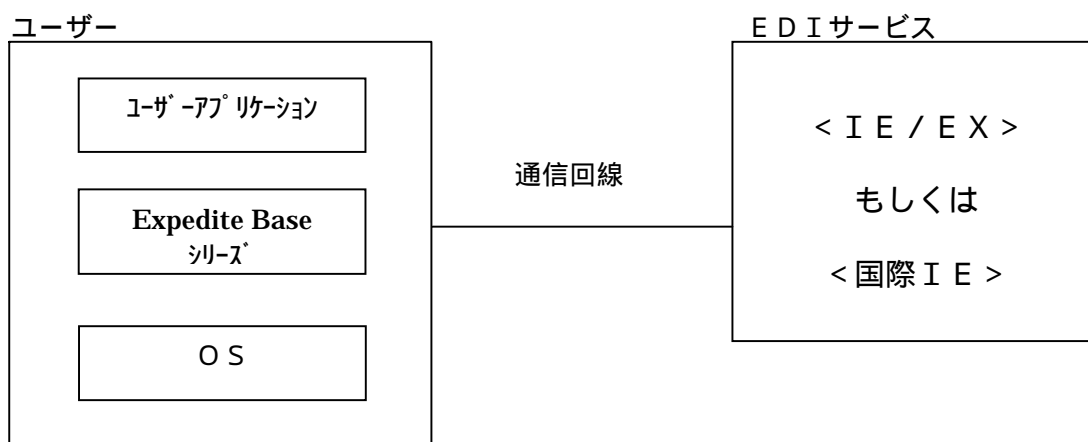
IE/EXサービスは、利用者（ユーザー）をそれぞれ識別するために、ユーザー識別コードを使用します。ユーザー識別コードは8桁の顧客コードと、8桁のユーザーIDおよびパスワードにより表されます。

各ユーザー識別コードにはそれぞれ、ユーザー・プロファイル情報があります。各プロファイルには、メッセージ交換できる相手先ユーザー（パートナー）のユーザー識別コードを「パートナー・リスト」として登録します。ユーザー・プロファイルおよびパートナー・リストの管理はIE/EXの「サービス管理責任者」が行います。

IE/EXサービスの主な機能は以下の通りです：

- ・ メッセージの送受信機能
- ・ メッセージの蓄積・保管機能
- ・ メッセージの削除
- ・ リカバリー機能
- ・ 宛先処理機能
- ・ セッション状況照会機能
- ・ オーディット・トレール機能
- ・ ライブラリー機能

IE/EXとデータを送受信するためのクライアントソフトウェアであるExpedite BaseシリーズとIE/EXサービスとの接続形態は下記の通りです。

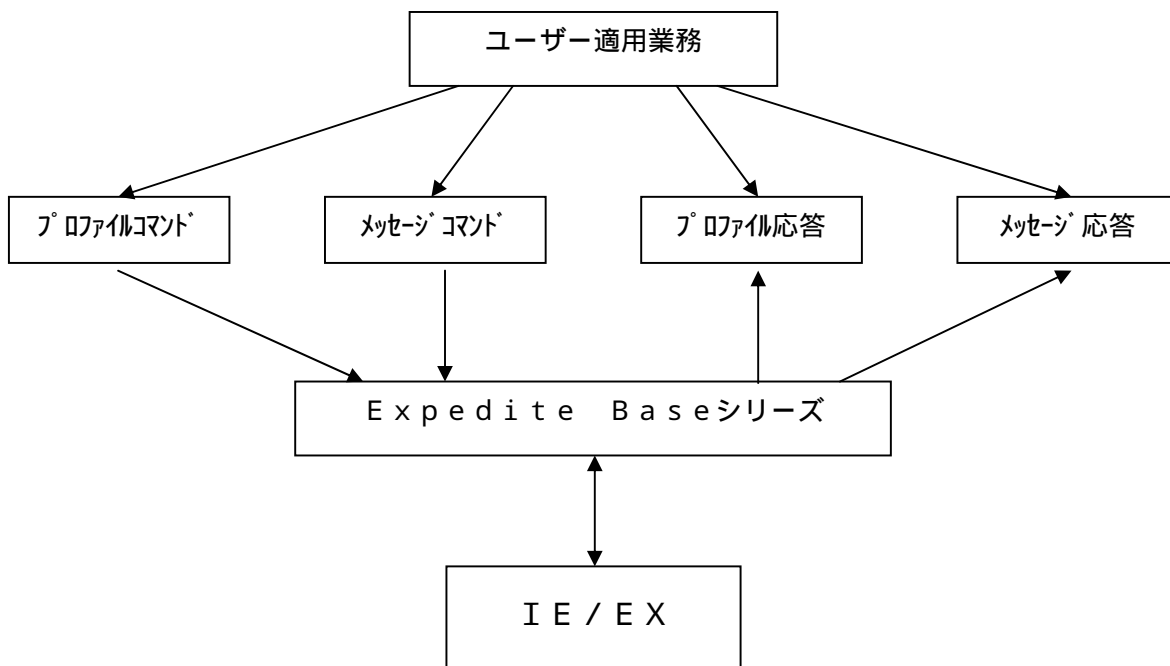


Expedite Baseシリーズによる基本的なファイルの使用法

Expedite Base シリーズは、お客様のデータをEDIサービス<IE/EX> <国際IE>送受信するためのクライアントプログラムです。Expedite Base を使用するには、コマンド・ファイルによって操作要求を指定し、IEBASE プログラムを実行後、対応する応答ファイルを調べて、要求の完了を確認します。Expedite Base が使用する基本的なファイルと応答ファイルを以下に示します。

- ・プロファイル・コマンド・ファイル
- ・プロファイル応答ファイル
- ・メッセージ・コマンド・ファイル
- ・メッセージ応答ファイル

以下の図は、これらのファイルがどのようにしてIE/EX サービスとの通信を可能にしているかを示しています。



プログラム関連資料

- ・IE/EXサービス概説書 (GXS-I001-00)

プロファイル・コマンド

プロファイル・コマンドは、NMS との間の通信を制御する為のコマンド・ファイルです。

コマンド構文について

#Comment or description

command **parameter**(value) parameter(value) ...parameter(value);

コメント行を定義します。#の後に情報を入力すると、新しい行が始まるまで、プログラムは#の後の文字を無視します。一部のファイル名と記述ステートメントは#を含んでいます。もしもユーザーがパラメーター値に#を挿入すると、コマンドの一部であること判断して、そのパラメーターやそれに続く文字を無視しません。

command コマンドを識別します。

parameter 先行するコマンドに対応するパラメーターを識別します。

parameter 太字に囲み線は、必須パラメータを意味します。

value パラメーターに対応する値を定義します。

— 下線は、省略時値を意味します。

... 上記の例で、パラメーターを好きなだけ指定できることを意味します。これは構文の一部ではありません。

; コマンドを終了します。

コマンド構文の例で使用できる製品を以下のように示しています。事前に確認の上、パラメーターの解説をご参照して下さい。

[WIN]	Expedite Base For Windows
[AIX]	Expedite Base/AIX
[MVS]	Expedite Base/MVS
[400]	Expedite Base/400

コマンドとパラメーターを、コマンド・ファイル内の数行にわたって入力することもできますが、以下の制限があります。

- ・コマンド名全体（例えば IDENTIFY）を1つの入力行におさめる。
- ・パラメーター名全体（例えば IEACCOUNT）を1つの入力行におさめる。
- ・左括弧はパラメーターの直後に入力する。パラメーター名と値の間に空白を挿入してはなりません。
- ・各コマンドをセミコロンで終了させる。

DIAL

DIAL コマンド (WIN, AIX)

DIAL コマンドは、NMS に接続するためのポート、モデム、電話（ダイヤル）に関する情報を入力するのに使用します。ユーザーは、電話番号、接続および回線切断スクリプト、ダイヤル回数、それに回線速度を最高5セットまで入力できます。パラメーターの終わりに1から5の番号を指定することで、各セットのメンバーを相互に関連させます。

DIAL コマンドの構文の例を以下に示します。

```
dial  
phonen(phone numberN)  
baudraten(baud rateN)  
dialcountn(dial countN)  
devicex(deviceX) [AIX]  
dbaudratex(dbaudrateX) [AIX]  
port(port) [WIN]  
modeminit(modem initialization string)  
modeminitx(modem init stringX) [AIX]  
modemreset(modem reset string)  
modemresetx(modem reset stringX) [AIX]  
cnnectscr(connect script)  
discnnectscr(disconnect script)  
initscr(initialization script)  
resetscr(reset script)  
cnnectscrn(connect scriptN)  
discnnectscrn(disconnect scriptN)  
initscrx(initialization scriptX) [AIX]  
resetscrx(reset scriptX) [AIX]  
manualdial(nly) [WIN]  
netinit(secondary network initialization string)  
netpw(secondary network password)  
netaddr(secondary network address)  
cycle(cycle)  
wait(wait)  
escape(escape sequence)  
phonetype(phone type)  
dclversion(1 | 2) [AIX]  
usern(user defined variable) [WIN, AIX]  
lockdir(lock directory); [AIX]
```

phonem IE/EX にダイヤルする時の電話番号を表します。非同期ダイヤルを使用する場合は、プロファイルで少なくとも1つの電話番号を指定しなければなりません。ユーザーが指定することができる番号は全部で5つです。電話番号には、モデムのダイヤル・コマンドで認識される制御文字を含めることができます。例えば、ユーザーが Hayes 互換のモデムを使っている場合は、ポーズ（休止）を示すカンマを電話番号に含めることができます。この値は、接続スクリプトの%PHONE%変数に代入されます。1-36 字の英数字を使用します。nの有効な値は 1-5 です。

baudraten 対応する電話番号のモデムのために速度を表します。この値は、接続スクリプトの %BAUD%変数に代入されます。

有効な値は次のとおりです。

300
1200
2400
4800
9600
19200
38400 [AIX はここまでが指定可能]
56000
57600

省略時値は 2400 です。nの有効な値は 1-5 です。

注：回線速度の最高値は、ダイヤルする電話番号とモデムの回線速度に依存します。

dialcountn 対応する電話番号にダイヤルする最高回数を表します。有効な値は 0-9 です。このパラメーターに 0 を指定すると、対応する電話番号をダイヤルしません。省略時値は 2 です。nの有効な値は 1-5 です。

devicex モデムが IE/EX に接続する際に使用する、通信デバイスドライバーを表します。ドライバー名は、フルパスで指定します。指定できる数は、全部で5つまでです。ここで指定されたドライバーの中で、最初に応答のあったものを使用します。Xの有効な値は、A-E です。

dbaudratex 通信デバイスドライバーの速度を表します。有効な値は、以下のとおりです。

300
1200
2400
4800
9600
19200
38400
省略時値は 2400 です。x の有効な値は A-E です。

D I A L

modeminitx	DEVICE x パラメーターで指定した通信デバイスドライバーを初期化するのに使用する、初期化文字列を表します。MODEMINIT パラメーターと MODEMINIT x パラメーターの両方が指定されている場合は、MODEMINIT x の値が使用されます。そして、MODEMINIT x パラメーターで指定されたモデム以外には、MODEMINIT パラメーターの値が使用されます。 x の有効な値は A-E です。初期化文字列には、40 文字まで使用できません。省略時値は ATL1X1V1Q0&C1&D2 です。
modemresetx	モデムを出荷前の設定にするか、あるいは他の状態にリセットするのに使用する文字列を表します。この値は、接続スクリプトの %RESET% 変数に代入されます。8 文字まで使用できます。省略時値は AT&F です。
port	モデムが IE/EX に接続する際に使用する PC のポートを表します。この値は、接続スクリプトの %PORT% 変数に代入されます。有効な値は 1-4 です。省略時値は 1 です。
modeminit	モデムを初期化するのに使用する初期化文字列を表します。この値は、接続スクリプトの %INIT% 変数に代入されます。40 文字まで使用できます。省略時値は ATL1X1V1Q0&C1&D2 です。
modemreset	モデムを出荷前の設定か、あるいは他の既知の状態にリセットするのに使用する文字列を表します。この値は、接続スクリプトの %RESET% 変数に代入されます。8 文字まで使用できます。省略時値は AT&F です。
cnctscr	NMS に接続するのに使用する接続スクリプトです。接続スクリプトは、電話番号がダイヤルされるたびに実行されます。接続スクリプトは電話番号をダイヤルして接続を確立するために使用されます。1-12 文字、[A I X] 1-14 文字の有効なファイル名を使います。省略時値は cnct.scr です。 接続スクリプトは、現行ディレクトリーか、プロファイル・コマンドにおいて SESSION コマンドで IEPATH パラメーターを指定したパスに置いてください。

注：予約ファイル名を指定しないでください。予約ファイル名についての詳細は、Programming Guide の “Reserved file name and user classes” を参照してください。

discnctscr NMS から回線切断した後に、モデムをオンフック状態（電話が切れた状態）に戻して、モデム設定をリセットするのに使用するモデム・スクリプトを表します。回線切断スクリプトはダイヤル操作を終了すると実行されます。回線切断スクリプトは、ネットワークから切断して電話をオンフック状態にします。1-12 文字、[A I X] 1-14 文字の有効なファイル名を使います。省略時値は `discnctscr` です。このスクリプトは、現行ディレクトリーか、プロファイル・コマンドにおいて `SESSION` コマンドで `IEPATH` パラメーターを使って指定したパスに置いてください。

注：予約ファイル名を指定しないでください。予約ファイル名についての詳細は、*Programming Guide* の “Reserved file name and user classes” を参照してください。

initscr モデムを初期化するのに使用するモデム・スクリプトを表します。通常、モデムを初期化するのに `cnctscr` を使用しますが、ユーザーが別のスクリプトを提供してモデムを初期化することも可能です。最初にモデムにアクセスする時にユーザーのスクリプトを使いますが、リダイヤルでは使用しません。1-12 文字、[A I X] 1-14 文字の有効なファイル名を使います。このスクリプト・ファイルは、現行ディレクトリーか、プロファイル・コマンドにおいて `SESSION` コマンドで `IEPATH` パラメーターを指定したパスに置いてください。

注：予約ファイル名を指定しないでください。予約ファイル名についての詳細は、*Programming Guide* の “Reserved file name and user classes” を参照してください。

resetscr モデムをリセットするのに使用するモデム・スクリプトを表します。通常、モデムをリセットするのに `discnctscr` を使用しますが、ユーザーが別のスクリプトを提供してモデムをリセットすることも可能です。最後にモデムを回線切断した後にユーザーのスクリプトを使用しますが、リダイヤルでは使用しません。1-12 文字、[A I X] 1-14 文字の有効なファイル名を使用します。このスクリプト・ファイルは、現行ディレクトリーか、プロファイル・コマンドにおいて `SESSION` コマンドで `IEPATH` パラメーターを指定したパスに置いてください。

注：予約ファイル名を指定しないでください。予約ファイル名についての詳細は、*Programming Guide* の “Reserved file name and user classes” を参照してください。

cnctscr n 異なる電話番号に対して使用する接続スクリプトを表します。例えば、`PHONE1` が `PAD` 接続処理を必要とし、`PHONE2` では必要でない場合は、`CNNCTSCR1` と `CNNCTSCR2` パラメーターを使って各電話番号に対して別々の接続スクリプトを指定できます。1-12 文字、[A I X] 1-14 文字の有効なファイル名を使います。このパラメーターを使用しないと、ユーザーが `CNNCTSCR` パラメーターで指定した値が省略時値になります。このスクリプト・ファイルは、現行ディレクトリーか、プロファイル・コマンドにおいて `SESSION` コマンドで `IEPATH` パラメーターを使って指定したパスに置いてください。 n の有効な値は 1-5 です。

D I A L

discnnctscr*n*

異なる電話番号に対して使用する回線切断スクリプトを表します。例えば、PHONE 1 が PAD 切断処理を必要とし、PHONE2 では必要でない場合は、DISCNNCTSCR 1 と DISCNNCTSCR2 パラメーターを使って各電話番号に対して別々の回線切断スクリプトを指定できます。1-12 文字、[A I X] 1-14 文字の有効なファイル名を使います。このパラメーターを使用しないと、ユーザーが DISCNNCTSCR パラメーターで指定した値が省略時値になります。
このスクリプト・ファイルは、現行ディレクトリーか、プロファイル・コマンドにおいて SESSION コマンドで IEPATH パラメーターを使って指定したパスに置いてください。*n* の有効な値は 1-5 です。

initscr*x*

特定のモデムを所期化するために使用するモデム所期化スクリプトを表します。INITSCR パラメーターと INITSCR*x* パラメーターの両方が指定されている場合は、INITSCR*x* の値が使用されます。そして、INITSCR*x* パラメーターで指定されたモデム以外には、INITSCR パラメーターの値が使用されます。*x* の有効な値は A-E です。
このスクリプト・ファイルは、導入したディレクトリーか、プロファイル・コマンド内の SESSION コマンドの IEPATH パラメーターで指定したパスに置いてください。

注：予約ファイル名を指定しないでください。

resetscr*x*

特定のモデムをリセットするために使用するモデム・スクリプトを表します。RESETSCR パラメーターと RESETSCR*x* パラメーターの両方が指定されている場合は、RESETSCR*x* の値が使用されます。そして、RESETSCR*x* パラメーターで指定されたモデム以外には、RESETSCR パラメーターの値が使用されます。ファイル名は、1-14 文字で指定してください。*x* の有効な値は A-E です。
このスクリプト・ファイルは、導入したディレクトリーか、プロファイル・コマンド内の SESSION コマンドの IEPATH パラメーターで指定したパスに置いてください。

注：予約ファイル名を指定しないでください。

manualdial

手動式ダイヤル・モデムを使用するかどうかを示します。

n CNNCTSCR パラメーターと DISCNNCTSCR パラメーターを使って自動ダイヤル接続を管理します。これは省略時値です。
y ユーザーが接続を確立するまで待機します。

netinit

2 次ネットワークを通して NMS にアクセスするのに使用する初期化文字列を表します。この値は、接続スクリプトの %NETINIT% 変数に代入されます。40 文字まで使用できます。

netpw

2 次ネットワークを通して NMS にアクセスする場合に使用する 2 次ネットワーク・パスワードを表します。この値は、接続スクリプトの %NETPW% 変数に代入されます。IDENTIFY コマンドで ENCRYPT(*y*) を指定する場合は、このパスワードを必ず 8 文字で暗号化しなければなりません。8 文字までの英数字を使います。

netaddr	2次ネットワークを通して NMS にアクセスする場合に使用する2次ネットワーク宛先を表します。この値は、接続スクリプトの%NETADDR%変数に代入されます。15文字までの英数字を使います。
cycle	NMS への接続に失敗した後に、電話番号リストをリダイヤルする回数を表します。有効な値は0-9です。省略時値は0です。
wait	接続サイクルの間に待機する時間を表します。このフィールドのフォーマットは、HHMMです。入力された全ての情報は右側に揃えられ、左側はゼロで埋め込まれます。省略時値は0000です。
escape	ローカルPBXから外線に接続するための文字列を表します。エスケープ文字列には、モデムのDIALコマンドで認識される制御文字を含ませることができます。例えば、ユーザーがHayes互換のモデムを使っている場合は、ポーズ(休止)を示すカンマを電話番号に含めることができます。この値は、接続スクリプトの%ESC%変数に代入されます。1-8文字の英数字を使います。
phonetype	電話の種類を表します。この値は、接続スクリプトの%PTYPE%変数に代入されません。 <p>p パルス方式電話(回転ダイヤル)を表します。 t トーン方式電話を表します(省略時値)。</p>
dclversion	Data Control layer(DCL)のブロックサイズを指定します。 通信速度が2400bpsもしくはそれ以下の場合には通常のDCLブロックサイズより小さい値を使用します。通信速度が2400bps以上の場合には通常のDCLブロックサイズより大きい値を使用します。例えばこのパラメータをDCLVERDION(2)と指定(デフォルト)し、通信速度が2400bps以上ならば通常のDCLブロックサイズよりも大きな値を自動的に使用します。(ゲートウェイがサポートしている場合のみ) IE/EXとNMSゲートウェイ間の通信回数を減らすことにより、スループットを向上させています。通常より大きなDCLブロックサイズを使用しない場合はDCLVERSION(1)を指定してください。 1 通常のDCL値よりも小さいサイズのDCL値を使用。 2 通信速度が2400bps以上ならば通常のDCLブロックサイズよりも大きな値を自動的に使用する(ゲートウェイがサポートしている場合のみ)デフォルト値です。
user<i>n</i>	モデムスクリプト中のユーザによって定義される代数の値を指定します。 user 1 モデムスクリプト内の代数%USER1%の値(1から32文字) user 2 モデムスクリプト内の代数%USER2%の値(1から32文字) user 3 モデムスクリプト内の代数%USER3%の値(1から32文字)

D I A L

lockdir

システムがデバイスロックファイルを別のディレクトリに書き換えようとした場合のロックディレクトリを指定します。lck..nnnn (nnnn はデバイス名) というファイルを作成します。このファイルは、コピーを行うための process ID を持っています。ロックファイルは他のアプリケーションが同時にモデムを使用する際の調整を行うのに使用します。

ロックファイルが作成される場所をフルパスで指定します。128 文字までの英字を使用し、最後の文字は “ / ” となります。

IDENTIFY コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

IDENTIFY コマンドを使って、NMS と IE/EX の各顧客コード、ユーザーID、パスワードおよびその他の情報を設定します。

IDENTIFY コマンドの構文の例を以下に示します。

```

identify
inaccount(network account) [WIN, AIX]
inuserid(network user ID) [WIN, AIX]
inpassword(network password) [WIN, AIX]
ninpassword(new network password) [WIN, AIX]
ieaccount(IE/EX account) [WIN, AIX]
ieaccount(IE/EX account) [MVS, 400]
ieuserid(IE/EX user ID) [WIN, AIX]
ieuserid(IE/EX user ID) [MVS, 400]
iepassword(IE/EX password) [WIN, AIX]
iepassword(IE/EX password) [MVS, 400]
niepassword(new IE/EX password)
product(product) [WIN, AIX]
timezone(time zone)
encrypt(n|y) [WIN, AIX]
codepage(codepage); [MVS, 400]

```

inaccount	NMS の顧客コードを表します。1-8 文字の英数字を使います。
inuserid	NMS のユーザーID を表します。1-8 文字の英数字を使います。
inpassword	NMS のパスワードを表します。ENCRYPT(n)を指定する場合は、1-8 文字の英数字を使います。ENCRYPT(y)を指定する場合は、この値を必ず 8 文字にして暗号化しなければなりません。
ninpassword	新しい NMS のパスワードを表します。IE/EX セッションにエラーがある場合でも、次回の NMS 接続において NMS パスワードを変更します。ENCRYPT(n)を指定する場合は、1-8 文字の英数字を使います。ENCRYPT(y)を指定する場合は、この値を必ず 8 文字にして暗号化しなければなりません。 パスワードの変更に関する詳細は、Programming Guide の “ Changing passwords ” を参照してください。
ieaccount	IE/EX の顧客コードを表します。1-8 文字の英数字を使います。 [WIN, AIX] メッセージ・コマンドで START コマンドを使う場合、このパラメーターを指定する必要はありません。START コマンドを使用しない場合は、このパラメーターが必要です。

I D E N T I F Y

ieuserid	IE/EX のユーザーID を表します。1-8 文字の英数字を使います。 [WIN, AIX] メッセージ・コマンドで START コマンドを使う場合、このパラメーターを指定する必要はありません。START コマンドを使用しない場合は、このパラメーターが必要です。
iepassword	IE/EX のパスワードを表します。 [WIN, AIX] ENCRYPT(n)を指定する場合は、1-8 文字の英数字を使います。ENCRYPT(y)を指定する場合は、この値を必ず 8 文字にして暗号化しなければなりません。
niepassword	新しい IE/EX のパスワードを表します。IE/EX セッションが正常に終了するとパスワードを変更します。次回の IE/EX セッションから変更したパスワードが有効です。IE/EX セッションにエラーがあると、パスワードは変更されません。 [WIN, AIX] ENCRYPT(N)を指定する場合は、1-8 文字の英数字を使います。ENCRYPT(Y)を指定する場合は、この値を必ず 8 文字にして暗号化しなければなりません。パスワードの変更に関する詳細は、Programming Guide の “ Changing passwords ” を参照してください。
product	プロダクト選択画面に表示される IE/EX のプロダクト名を表します。1-8 文字の英数字を使います。省略時値は infoexch です。 [WIN, AIX] 非同期、S D L C < I E / E X > と接続する場合、Q Z Q B P C I 1 を指定して下さい。 < 国際 I E > と接続する場合、Q Z Q B P C I 2 を指定して下さい。 [AIX] L U 6 2 < I E / E X > と接続する場合、Q Z Q B 6 2 I 1 を指定して下さい。 < 国際 I E > と接続する場合、Q Z Q B 6 2 I 2 を指定して下さい。
timezone	時間帯を表します。1-5 文字の英数字を使います。有効な値は、ast、ahd、ahs、bst、cdt、cst、ead、edt、emt、est、gmt、jst、mdt、mst、pdt、pst、wed、wes、ydt、yst です。また、グリニッジ標準時の東または西で時間帯 (時 / 分) を指定することもできます。 hh 00 から 23 mm 00 から 59 省略時値は gmt です。 値 その意味 e 東 w 西 hh 時間 mm 分 ahd W0900 (Alaska-Hawaii daylight). ahs W1000 (Alaska-Hawaii standard). ast W0400 (Atlantic standard time). bst E0100 (British summer time). cdt W0500 (Central daylight time).

cst	W0600 (Central standard time).
ead	E1000 (Eastern daylight time).
edt	W0400 (Eastern daylight time).
emt	E0200 (Eastern Mediterranean time).
est	W0500 (Eastern standard time).
gmt	E0000 (Greenwich mean time).
jst	E0900 (Japanese standard time).
mdt	W0600 (Mountain daylight time).
mst	W0700 (Mountain standard time).
pdtd	W0700 (Pacific daylight time).
pst	W0800 (Pacific standard time).
wed	E0200 (Western Europe daylight time).
wes	E0100 (Western Europe standard time).
ydt	W0800 (Yukon daylight time).
yst	W0900 (Yukon standard time).

encrypt IDENTIFY コマンドと START コマンドのパスワードが暗号化されるかどうかを 指定します。

n	パスワードは暗号化されない。(省略時値)
y	パスワードは暗号化される。

注：y を指定すると、コマンドにパスワードを入力する前に全てのパスワードを暗号化しなければなりません。また、ENCRYPT(y)は、すべてのパスワード・パラメーターの前で指定してください。そうしないと、ENCRYPT(y)パラメーターを読む前に暗号化されたパスワードを読みます。パスワードが暗号化されることを知らないで、パスワードは適切に処理されません。
パスワードの暗号化に関する詳細は、Programming Guide の “ Encryption/decryption of passwords ” を参照してください。

codepage 送信するデータと関連付けたいコード・ページ。コード・ページが指定されていると、データを送信するときに CDH にその値を入れます。受信者は、特別のデータ変換機能を使う必要があるかどうかを知ることができます。1-3 文字の数字を使ってください。

SESSION

SESSIONコマンド (WIN, AIX)

省略時値のセッション情報を変更するには、SESSION コマンドを使用します。SESSION コマンドの機能は次のとおりです。

- ・別の終了キー (PF キー) を指定する。
- ・プログラム・ファイルが存在する別のディレクトリーを指定する。
- ・IE/EX ステータス図を表示させない。
- ・IE/EX の接続状態と通信状態を表示しない。
- ・終了した後に実行するプログラムを指定する。
- ・IE/EX からファイルを受信する際に、既存のファイルに上書きするかどうかを指示する。

SESSION コマンドの構文の例を以下に示します。

session

exitkey(exit key)

iepath(IE path)

picture(y | n)

status(y | n)

nextprogram(next program)[AIX]

overwrite(y | n);

exitkey 終了させるのに使用する PF キーを表します。有効な値は 2-10 です。
省略時値は 3 です。

iepath	プログラム・ファイル（display.scr、errmsg.fil など）、モデム・スクリプト・ファイル、EDI 変換テーブル・ファイルなどを導入するディレクトリーを表します。省略時値は現行ディレクトリーです。影響を及ぼすプログラムファイルのリストは、Programming guide の “Reserved file names for IEPATH parameter” を参照して下さい。
picture	IE/EX ステータス図を描くかどうかを表します。 y IE/EX ステータス図を描きます（省略時値）。 n IE/EX ステータス図を描きません。
status	IE/EX の接続状態と通信状態を表示するかどうかを表します。 y IE/EX の接続状態と通信状態を表示します（省略時値）。 n IE/EX の接続状態と通信状態を表示しません。
nextprogram	IE/EX セッションの後にユーザーのシステムが呼び込むプログラムを指定します。アプリケーションの呼び出しに自動的に戻らない場合にのみ、このフィールドを使います。例えば、C 言語の“execl”ステートメント呼び込む場合に、このオプションが必要です。1-14 文字の英数字を使います。省略時値は空白です。
overwrite	IE/EX からデータを受信する時に、既存のファイルに上書きするかどうかを表します。 y RECEIVE コマンドか RECEIVEEDI コマンドの FILEID パラメーターで指定されたファイルがすでに存在する場合に、IE/EX から受信したデータでそのファイルに上書きします。これは省略時値です。 n RECEIVE コマンドか RECEIVEEDI コマンドの FILEID で指定されたファイルに上書きしません。ファイルがすでに存在する場合は、IE/EX から受信されたデータが既存のファイルに付加されます。

注：同じセッションで同じ名前をもつ2つのファイルを受信すると、2番目のファイルのデータは、1番目のファイルに付加されます。

SNACOMM

SNACOMMコマンド (AIX, MVS, 400)

SNA APPC 通信に必要なパラメーターを指定するには、SNACOMM コマンドを使用します。
[MVS, 400] においては IE/EX サービス LU 6.2 リレーの名前を示します。

SNACOMM コマンドのパラメーターは次のとおりです。

snacomm

connection(connection) [AIX]

ieluname(IE/EX LU name) [MVS, 400]

userluname(user LU name) [MVS, 400]

ielumode(IE/EX LU mode) [MVS, 400]

rusize(RU size) [MVS]

ielunetid(IE LU network ID); [400]

connection	セッションで使用する、SNA サービスのプロファイル名を指定します。1-31 文字の英数字で指定します。省略時値は、 expconn です。
ieluname	IE/EX LU 6.2 リレーの LU 名。1-8 文字の英数字を使ってください。 省略時値は、U.S のリレー名を示す ibm0rely です。 < I E / E X > と接続する場合、 Q Z Q B 6 2 I 1 を指定して下さい。 < 国際 I E > と接続する場合、 Q Z Q B 6 2 I 2 を指定して下さい。
userluname	ユーザーの適用業務の LU を使用します。MVS システム上の VTAM に定義されていなければなりません。複数ジョブを同時に実行する場合は、同時実行するジョブ数分の LU が必要です。導入する場合、このパラメーターを繰り返し、LU 名のグループを定義しなければなりません。1-8 文字の英数字を使ってください。このパラメーターは必須です。
ielumode	IE/EX LU 6.2 リレーとの通信に使用されるモード名。1-8 文字の英数字を使ってください。省略時値は iinappc です。
rusize	SNA 要求ユニットのサイズ。256 から 3840 までの値が有効です。省略時値は 3840 です。システム・プログラマーが特に指定 していない場合には、このパラメーターを省略時値にしてください。
ielunetid	IE/EX サービス LU 6.2 リレーのネットワーク ID 1-8 文字の英数字を使ってください。省略時値は ibmin です。 [400] NETNMS1 を指定して下さい。

T C P C O M M コマンド (WIN, AIX, MVS,400)

TCPCOMM コマンドは、TCP / IP 接続を行うために使用します。

TCPCOMM コマンドの構文の例を以下に示します。

tcpcomm

dialprofile(dialer login profile name) [WIN]

dialcount(dial count) [WIN]

timeout(minutes) [WIN, AIX]

ietcphost*n*(IE TCP/IP host *N*) [MVS,400]

ietcport*n*(IE TCP prot ID N); [MVS,400]

dialprofil	AT&T ダイアラーにて使用したログインプロファイル名を指定します。TCP/IP ダイアル接続をする際にはこのパラメータは必須です。また、TCP/IP ダイアル接続する前に AT&T ダイアラーにてログインプロファイルを作成しておく必要があります。専用線や WindowsNT 版については、このパラメータは必要ありません。1 ~ 8 文字の英数字を使用します。
dialcount	AT&T ダイアラーにてダイアルする電話番号のダイアル回数を指定します。有効な値は 0-9 です。デフォルト値は 3 です。このパラメータはオプション指定です。専用線や WindowsNT 版については、このパラメータは必要ありません。
timeout	IE/EX との接続時の待ち時間の最大値を指定します。IE/EX とデータの送受信を行う前にこの timeout パラメータにて設定した時間を超えてしまった場合は切断されます。この timeout パラメータにて設定した時間を超える前に切断された場合、すぐに通知されます。RECEIVE、RECEIVEEDI コマンドにて WAIT パラメータが本パラメータで指定した値より大きい値で指定されている場合でも、本パラメータの値が使用されます。値は 2-10 が有効です。デフォルト値は 10 です。
ietcphost <i>n</i>	IE/EX に接続可能なフロントエンドの IP アドレスを指定します。IP アドレスは、nn.nnn.nnn.nnn で指定します。nnn は 0 から 255 までの数字です。このパラメータは必須です。n の有効な値は 1-5 です。 < I E / E X > < 国際 I E > と接続する場合、1 6 6 . 1 0 0 . 6 5 . 3 3 を指定して下さい。ietcphost <i>n</i> の <i>n</i> は 1 のみ有効です。

T C P C O M M

ietcpport*n*

IE/EX に接続可能なフロントエンドのポート ID を指定します。1-32767 までの 5 桁の数字で指定します。このパラメータは必須です。 *n* の有効な値は 1-5 です。

< I E / E X > と接続する場合、“ 3 0 0 3 ” を指定して下さい。

< 国際 I E > と接続する場合、“ 3 0 0 2 ” を指定して下さい。

< I E / E X > < 国際 I E > と接続する場合、ietcpport*n* の *n* は 1 のみ有効です。

TRACE コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

TRACE コマンドは、セッションの最中にどの情報をトレース・ファイルに記録するかを指定します。

[WIN, AIX] ユーザーが BASE、CNNCT、DISPLAY、IOFILE、MODEM、PROTOCOL を要求すると、トレース・ファイル (iebase.trc) にトレース情報を入れます。LINK を要求すると、リンク・トレース・ファイル (s1dcl.trc) にトレース情報を入れます。

[MVS] ユーザーが BASE、IOFILE、PROTOCOL を要求すると、トレース情報を入れる為の ddname BASETRC ファイルを指定する必要がある、LINK を要求すると、リンク・トレース・ファイルを入れる為の ddname BASETRC を指定する必要があります。

[400] ユーザーが BASE、IOFILE、PROTOCOL を要求すると、トレース情報を入れる為の BASETRC ファイルを指定しなければなりません。

注：トレースを要求しない場合でも、トレース・ファイルを作成して、最小限の情報を入れます。

TRACE コマンドの構文の例を以下に示します。

trace

```

cnct(n|y) [WIN, AIX]
display(n|y) [WIN, AIX]
modem(n|y) [WIN, AIX]
protocol(n|y)
link(n|y) [WIN, AIX, MVS]
base(n|y)
iofile(n|y);

```

cnct トレース・ファイルにモデム・スクリプトの構文情報を持たせるかどうかを表します。モデム・スクリプトの修正で問題がある場合に、このトレースを使います。

n トレース・ファイルにモデム・スクリプト情報を含みません(省略時値)。
y トレース・ファイルにモデム・スクリプト情報を含みます。

display トレース・ファイルに表示ステータス・ファイルの処理情報を持たせるかどうかを表します。display.scr の修正で問題がある場合に、このトレースを使います。

n トレース・ファイルにステータス画面の情報を含みません(省略時値)。
y トレース・ファイルにステータス画面の情報を含みます。

modem トレース・ファイルにモデムに送られたコマンドとモデム応答を持たせるかどうかを表します。モデムが適切に動作しない場合に、このトレースを使います。

n トレース・ファイルにモデム・コマンド情報を含みません(省略時値)。
y トレース・ファイルにモデム・コマンド情報を含みます。

TRACE

protocol

トレース・ファイルに IE/EX のプロトコル情報を持たせるかどうかを表します。 EDI ヘルプデスクはこのトレースを基に問題を判定します。

- n トレース・ファイルに IE/EX プロトコル情報を含みません (省略時値)。
- y トレース・ファイルに IE/EX プロトコル情報を含みます。

link

データ制御層の情報をトレースするかどうかを表します。sidcl.trc に LINK プロトコル情報を入れます。[MVS] リンク・トレースを ddname LINKTRC で参照されるファイルに入れます。このトレースを基に問題を判定します。

- n トレース・ファイルにリンク情報を含みません (省略時値)。
- y トレース・ファイルにリンク情報を含みます。

base

トレース・ファイルにモジュール情報を持たせるかどうかを表します。EDI ヘルプデスクはこのトレースを基に問題を判定します。

- n トレース・ファイルにモジュール情報を含みません (省略時値)。
- y トレース・ファイルにモジュール情報を含みます。

iofile

プロファイル・コマンドとメッセージ・コマンドの作成または修正で問題がある場合に、このトレースを使用します。

- n トレース・ファイルにコマンド解析情報を含みません (省略時値)。
- y トレース・ファイルにコマンド解析情報を含みます。

TRANSMIT コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

TRANSMIT コマンドは、ブロックサイズ、最大メッセージ、その他の情報を指定するのに使用します。また、IE/EX セッションを自動的に開始および終了するかどうかを指定するのに、このコマンドを使います。

TRANSMIT コマンドの構文の例を示します。

transmit

autostart(y|n)
 reconnect(reconnect) [WIN, AIX]
 autoend(y|n)
 msgsize(message size)
 commitdata(commit data)
 delaytime(delay time) [WIN]
 delaydate(delay date) [WIN]
 blocksize(block size) [WIN, AIX]
 translate(translate table) [WIN, AIX]
 maxmsgs(max msg segments)
 commtype(a|c|m|t|w) [WIN]
 commtype(a|s|t|w) [AIX]
 commtype(s|t) [MVS]
 recovery(c|s|f|u) [WIN, AIX]
 recovery(c|s|f|u) [MVS, 400]
 timeout(timeout); [MVS]

autostart	IE/EX セッションを自動的に開始するかどうかを表します。メッセージ・コマンドの処理を開始する時にだけ IE/EX セッションを自動的に開始します。メッセージ・コマンドで複数の IE/EX セッションを開始させる場合は、AUTOSTART(n)と AUTO END(n)を指定しなければなりません。
y	自動的に IE/EX セッションを開始します。メッセージ・コマンドに S TART コマンドを指定する必要はありません。これは省略時値です。
n	自動的に IE/EX セッションを開始しません。メッセージ・コマンドに S TART コマンドを含めなければなりません。
reconnect	ネットワークへのログオンに成功した後に接続を失った場合に、IE/EX への再接続を試行する回数を表します。有効な値は 0-9 です。省略時値は 5 です。

autoend ユーザーのコマンド・ファイルの処理を終了した時に、IE/EX セッションの終了 コマンドを自動的に送信するかどうかを表します。メッセージ・コマンドの処理を終了した時にだけ IE/EX セッションを自動終了させます。メッセージ・コマンドで複数の IE/EX セッションを開始させる場合は、AUTOSTART(n)と AUTOEND(n)を指定しなければなりません。

y 自動的に IE/EX セッションを終了します。メッセージ・コマンドに E ND コマンドを指定する必要はありません。これは省略時値です。
n 自動的に IE/EX セッションを終了しません。メッセージ・コマンドに E ND コマンドを含めなければなりません。

msgsize 送信データをセグメント化します。パートナーは、このパラメーターで指定されるメッセージ・サイズの間隔でしかチェックポイントをとれません。低い値を指定すると、受信側は、データの受信時にチェックポイントを頻繁にとることができます。
有効な値は、[WIN, AIX] 1000-47000、
[MVS, 400] 1000-99999 です。
省略時値は、[WIN, AIX] 37000 バイト、
[MVS, 400] [WIN, AIX の TCP/IP 接続] 47000 バイトです。

注：MSGSIZE は、COMMITDATA と等しいかあるいはそれよりも低く設定しなければなりません。

commitdata このパラメーターはチェック・ポイント・レベル・リカバリーの指定時にのみ有効です。セッション・レベル、ファイル・レベル、ユーザー・レベルでは、このパラメーターは無効です。この値が、プログラムがチェックポイントとの間で送信するデータの最大バイト数になります。COMMITDATA 値は MSGSIZE 値の偶数倍にすると効率的です。低い値を指定しておけば、通信異常の際に再送信するデータの量が少なくて済みます。値が高ければ、データの伝送速度が早くなります。
有効な値は、[WIN, AIX] 1000-141000、
[MVS, 400] 1000-9999999 です。
省略時値は、[AIX (TCP/IP 以外)] 37000 バイト、
[WIN, AIX (TCP/IP), MVS, 400] 141000 バイトです。

注：この値は、最低でも MSGSIZE で指定する値と同じにしてください。

delaytime IE/EX との通信を開始する時刻を表します。形式は HHMMSS です。このパラメーターを指定せずに、DELAYDATE パラメーターを指定すると、遅延日の真夜半（時間 0000）に通信を始めます。

delaydate IE/EX との通信を開始する日を表します。形式は YYMMDD です。省略時値は当日です。

blocksize IE/EX メッセージをブロック化する時のブロック・サイズを表します。有効な値は 256-3500 (米国/日本方式非同期通信)、256-1024 (欧州方式非同期通信) です。省略時値は、COMMTYPE(w)の時は 1024、COMMTYPE(m)の時は 1920、その他のCOMMTYPEの時は 2000 です。IE/EX との接続が頻繁に失われない限りは、省略時値を変更しないでください。

translate ASCII から EBCDIC への変換と EBCDIC から ASCII への変換に使用する省略時値テーブルを表します。1-8 文字を使います。この値に接尾部.xlt を付加して変換テーブルのファイル名を作成します。指定する変換テーブルは、現行ディレクトリーか、SESSION コマンドの IEPATH パラメーターで指定したパスになければなりません。テーブルを指定しないと、標準 IE/EX 変換テーブルが省略時値テーブルになります。

注：この値は、SEND、SENDEDI、RECEIVE、RECEIVEEDI コマンドの TRANSLATE パラメーターによって上書きされます。

maxmsgs プログラムが IE/EX のコミット間で受信するメッセージ・セグメントの最大数です。有効な値は 1-10 です。指定する数が大きくなると、IE/EX がコミットせずに ユーザーに送信するデータの量が増えます。小さい値を指定すると、データのコミットが頻繁に行なわれます。省略時値は 10 です。IE/EX との接続が頻繁に失われない限りは、省略時値を変更しないでください。

commtype データ伝送に使用される通信プロトコルの種類を表します。

- a [WIN, AIX] 米国/日本方式非同期通信
このオプションは、SNA 非同期ゲートウェイ接続を必要とします。このゲートウェイは米国および日本では一般的ですが、それ以外の国々では限定されています。
- c [WIN] TCP/IP 接続
このオプションは TCP/IP にてセキュア IP (AT&T グローバル・ネットワーク網) に接続するために使用します
- w [WIN, AIX] 欧州方式非同期通信
これは、SNA 非同期ゲートウェイが利用できない国で、非同期通信による IE/EX アクセスを可能にします。一般に非 Series/1 非同期通信は米国および日本以外の国で使用されています。
- t [WIN, AIX, MVS, 400] TCP/IP 専用線接続
このオプションはセキュア IP (AT&T グローバル・ネットワーク網) へ WAN 接続で TCP/IP 接続がされている場合に指定します。
- s [AIX, MVS, 400] SNA LU通信
省略時値は、[WIN, AIX] a、[MVS, 400] s です。

recovery データ伝送を行なう時に使用するリカバリーレベルの種類を表します。

c チェックポイントレベルリカバリー

s セッションレベルリカバリー

f ファイルレベルリカバリー

u ユーザーレベルリカバリー

省略時値は、[WIN, AIX] c、[MVS, 400] s です。

timeout エラーを生成する前に IE/EX からの応答を何分待つかを指定します。
有効な値は 0 から 99 までです。省略時値は 2 です。

注：0 を指定した場合、最大値が使われます。

メッセージ・コマンド

メッセージ・コマンドは、ファイルの送受信、IE/EX メールボックスの管理、ユーザー・リストの定義を行なうのに使用します。

ARCHIVEMOVE コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

ARCHIVEMOVE コマンドは、IE/EX の保管ファイルからメールボックスにファイルをコピーします。

ARCHIVEMOVE コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、MOVED レコードと RETURN レコードです。

ARCHIVEMOVE コマンドの構文を以下に示します。

archivemove

archiveid(archive ID);

archiveid

保管ファイルからメールボックスにコピーしようとするファイルの保管ファイル参照キーを表します。保管ファイル参照キーは、ファイルを受信する時に、RECEIVE コマンドか RECEIVEEDI コマンドの ARCHIVEID パラメーターで指定する値です。ファイルの受信時に、ARCHIVEID パラメーターを指定しなければ、IE/EX はセッション参照キーを保管ファイル参照キーとして割り当てます。セッション参照キーを確認するには、メッセージ応答ファイル中の RECEIVED レコードの SESSIONKEY パラメーターを調べるか、IE/EX サービス管理責任者機能で調べます。1-8 文字の英数字で指定します。これは必須パラメーターです。

[MVS, 400] 保管ファイル参照キーは、RECEIVESTREAM コマンドの ARCHIVEID パラメーターでも可能です。

AUDIT

AUDITコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

AUDIT コマンドは、IE/EX からオーデット・トレールを取り出し、その情報をメールボックスに入れます。オーデット・トレールをメールボックスから取り出すためには RECEIVE コマンドを発行しなければなりません。オーデット情報は、顧客コード *SYSTEM*、ユーザーID *AUDITS*、ユーザー・クラス#SAUDIT で受信します。AUDIT コマンドに対応するメッセージ応答レコードは RETURN レコードです。オーデット情報の詳細は、Programming Guide の “Using additional features” を参照してください。[MVS, 400] “Sample audit report” を参照して下さい。

注：オーデットはすぐに利用できません。したがって、AUDIT コマンドを発行した直後に RECEIVE コマンドを出してもオーデット・ファイルを受信できません。通常、オーデットは次のセッションで利用可能になります。

AUDIT コマンドの構文例を以下に示します。

audit

account(account) userid(user ID)

or

sysid(system ID) account(account) userid(user ID)

or

alias(alias) aliasname(alias name)

altacct(alternate account) [WIN, MVS, AIX]

altuserid(alternate user ID|?)

msgtype(b|s|r)

class(class)

startdate(start date)

enddate(end date)

status(blank|u|p|d)

timezone(l|g)

level(1|2|3);

account IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーが単一ユーザーとメッセージ交換のためのオーデット・トレールだけを要求することを示します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

userid IE/EX ユーザーのユーザーID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのパラメーターを使って、ユーザーが単一ユーザーとメッセージ交換のためのオーディット・トレールだけを要求することを示します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

sysid IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合のみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。、ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーが単一ユーザーとのメッセージ交換のためのオーディット・トレールだけを要求することを示します。

空白 ニックネームを使用しません (省略時値)

gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

oxxx オーガニゼーションナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

注：ニックネーム・テーブルの作成、保守には 2 つの方法があります。

1. IE/EX サービス管理責任者機能を使用する (「IE/EX サービス サービス管理責任者ご利用の手引き」を参照)。
2. DEFINEALIAS コマンドを使う

aliasname ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブルのニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーが単一ユーザーとのメッセージ交換のためのオーディット・トレールだけを要求することを示します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。

altacct 取り出したいオーディット・レコードの代替顧客コードを指定します。1-8 文字の英数字です。ALTACCT パラメーターを指定すると ALTUSERID を指定しなければなりません。LEVEL パラメーターは、3 が必須です。

A U D I T

altuserid

顧客コード内の別ユーザーのオーディット・トレールを取り出したいことを意味します。顧客コード内の別ユーザーのオーディット・トレールを取り出すには、そのユーザーID をここに指定します。顧客コード内の全ユーザーのオーディット・トレールを取り出すには、このパラメーター値に?を使用します。

[400] いくつかの特定ユーザーのオーディット・トレールを取り出したい場合は、A U D I T コマンド内で取り出したいユーザー I D をそれぞれ指定します。

注：サービス管理責任者の権限がなければ、IE/EX はオーディット要求を無視して、ユーザーのメールボックスにエラー・メッセージを入れます。

msgtype

取り出すオーディット・トレールの種類を表します。

- b ユーザーが送ったファイルとユーザーに対して送られたファイルの全オーディット・トレールを取り出します (省略時値)。
- s ユーザーが送った全ファイルのオーディット・トレールを取り出します。
- r ユーザーに送られたファイルの全オーディット・トレールを取り出します。

class

オーディット・トレールを取り出そうとするファイルのユーザー・クラスを表します。1-8 文字の英数字で指定します。

startdate

ある期間のメッセージとファイルについてのオーディット・トレールを取り出す際に、その期間の開始日を指定します。形式は YYMMDD か YYYYMMDD です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。

注：2桁で指定した場合は、過去 (現在の年) - 50、将来 (現在の年) + 49 までの範囲で4桁変換します。

enddate

ある期間のメッセージとファイルについてのオーディット・トレールを取り出す際に、その期間の終了日を指定します。形式は YYMMDD か YYYYMMDD です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。

注：2桁で指定した場合は、過去 (現在の年) - 50、将来 (現在の年) + 49 までの範囲で4桁変換します。

status

特定の状態のファイルについてのオーディット・トレールを取り出すことを表します。

- 空白 全ファイルのオーディット・トレールを取り出します (省略時値)。
- u 配布されていないファイルについてのオーディット・トレールを取り出します。
- p 廃棄されたファイルについてのオーディット・トレールを取り出します。
- d 配布されたファイルについてのオーディット・トレールを取り出します。

timezone	STARTDATE パラメーターと ENDDATE パラメーターの日付と時間の参照を表します。
	l ユーザーの現地時間 (省略時値)
	g GMT (グリニッジ標準時)
level	オーディット・トレールのスタイルを表します。
	1 元のスタイルでオーディット・トレールを取り出します (省略時値)。
	2 拡張スタイルでオーディット・トレールを取り出します。
	3 別顧客コードのユーザーの為の E D I コントロール番号を LEVEL 2 に付加して取り出します。

CANCEL

CANCEL コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

CANCEL コマンドは、ユーザーが以前に単一の顧客コードとユーザーID、ユーザー・リスト、またはニックネームで指定した宛先に送信したファイルを取り消すために使用します。送信したファイルがまだ未受信の場合のみ、そのファイルを取り消すことができます。受信者のメールボックスのファイルを取り消す要求ができるのは、そのファイルの送信者だけです。

CANCEL コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RETURN レコードです。

CANCEL コマンドの構文例を以下に示します。

```
cancel  
account(account) userid(user ID)  
or  
alias(alias) aliasname(alias name)  
or  
listname(list name)
```

```
priority(blank | p)  
msgname(message name)  
msgseqno(message sequence number)  
class(class)  
timezone(l | g)  
ack(blank | h | t)  
startdate(start date)  
starttime(start time)  
enddate(end date)  
endtime(end time);
```

account データの宛先の IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

userid データの宛先の IE/EX ユーザーのユーザーID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのパラメーターを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、データの宛先のユーザーを指定します。

空白 ニックネームを使用しません（省略時値）
 gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
 oxxx オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
 pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

注：ニックネーム・テーブルの作成、保守には 2 つの方法があります。

1. IE/EX サービス管理責任者機能を使用する（「IE/EX サービス サービス管理責任者ご利用の手引き」を参照）
2. DEFINEALIAS コマンドを使う

aliasname ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブルのニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、データの宛先のユーザーを指定します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。

listname 顧客コードとユーザーID のリスト名を表します。このフィールドを使ってデータを送信した先のユーザーのリストを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。

priority 取消すファイルの配布クラスを表します。

空白 普通クラス（省略時値）
 p 至急クラス

msgname 取消すファイルのメッセージ名を表します。1-8 文字の英数字で指定します。

msgseqno 取消すファイルのメッセージの順序番号を表します。1-5 文字の英数字で指定します。

class 取消すファイルのユーザー・クラスを表します。1-8 文字の英数字で指定します。

timezone STARTTIME パラメーターと ENDTIME パラメーターの時刻の参照を表します。

l ユーザーの現地時間（省略時値）
 g GMT（グリニッジ標準時）

CANCEL

ack	どのタイプの取消し確認メッセージを受信するかを表します。
空白	ファイルの取消し確認メッセージを作成しません。ただし、IE/EX は別タイプの確認メッセージを作成する場合があります。 これは省略時値です。
h	確認メッセージはヘッダー情報だけを含みます。
t	確認メッセージはヘッダー情報とテキスト情報を含みます。
注：< IE / EX >の@STATASの作成は、ユーザープロファイルでの設定が前提となります。	
startdate	ある期間にわたってファイルを取り消したい場合に、その期間の開始日を指定します。ファイルが取消されるためには、ファイルが IE/EX に送信された日付が、この期間内になければなりません。形式は YYMMDD か YYYYMMDD です。 指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。
注：2桁で指定した場合は、過去（現在の年） - 50、将来（現在の年） + 49までの範囲で4桁変換します。	
starttime	ある期間にわたってファイルを取り消したい場合に、その期間の開始時刻を指定します。ファイルが取消されるためには、ファイルが IE/EX に送信された時刻が、この期間内になければなりません。形式は HHMMSS です。 指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。
enddate	ある期間にわたってファイルを取り消したい場合に、その期間の終了日を指定します。ファイルが取消されるためには、ファイルが IE/EX に送信された日付が、この期間内になければなりません。形式は YYMMDD か YYYYMMDD です。 指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。
注：2桁で指定した場合は、過去（現在の年） - 50、将来（現在の年） + 49までの範囲で4桁変換します。	
endtime	ある期間にわたってファイルを取り消したい場合に、その期間の終了時刻を指定します。ファイルが取消されるためには、ファイルが IE/EX に送信された時刻が、この期間内になければなりません。形式は HHMMSS です。指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。

COMMITコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

COMMIT コマンドは、ユーザー・レベル・リカバリーを指定している場合にSEND, SENDEDI, PUTMEMBERコマンドで有効です。

COMMIT コマンドには、パラメーターがありません。

commit;

使用例

```
SEND FILEID(data1.fil) ACCOUNT(XXXX) USERID(XXXXXXXXX) CLASS(DATA1);  
COMMIT;  
SEND FILEID(data2.fil) ACCOUNT(XXXX) USERID(XXXXXXXXX) CLASS(DATA2);
```

DEFINEALIAS

DEFINEALIAS コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

DEFINEALIAS は次のことを行ないます。

- ・ [WIN, AIX] ニックネーム・テーブルの作成
- ・ 新しいニックネームの追加
- ・ 既存のニックネームの再定義
- ・ 既存のニックネーム・テーブルの変更または削除

注：ユーザーID にニックネーム・テーブルを更新できる権限があることが前提です。権限がない場合はメールボックスにシステム・エラー・メッセージが入ります。

通常、コマンドのパラメーターの指定順序は自由ですが、DEFINEALIAS コマンド項目には、[WIN] DEFINEALIAS パラメーター、[AIX] DEFINENAME パラメーター、[MVS] ALIASTABLE パラメーターと、以下の項目で示すパラメーターのいずれかが含まれていなければなりません。

- ・ ACCOUNT および USERID
- ・ SYSID、ACCOUNT、および USERID
- ・ ALIAS および ALIASNAME

これらの項目は正しく対にしなければなりません。つまり、DEFINENAME パラメーターは ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターとともに指定するか、あるいは SYSID、ACCOUNT および USERID パラメーターとともに指定しなければなりません。あるいは、ALIAS パラメーターと ALIASNAME パラメーターとともに DEFINENAME パラメーターを指定します。

以前の DEFINENAME 定義を完了しなければ、他の DEFINENAME パラメーターを指定することができません。

FUNCTION パラメーターの値に消去の e が指定されていれば、DEFINENAME パラメーターは指定できません。

DEFINEALIAS コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RETURN レコードです。

セッションの最中では、IE/EX はテーブルの更新を行ないません。したがって、ニックネーム・テーブルが更新されなくても、DEFINFALIAS コマンドに対してゼロのリターン・コードを受け取ることもあります。ユーザーが存在しないテーブルにニックネームを加えようとすると、このようなことが起こります。この場合、IE/EX はユーザーのメールボックスにシステム・エラー・メッセージが出されます。

DEFINEALIAS コマンドの構文例を以下に示します。

definealias

aliastable(alias table)

function(a|n|c|d|e) [WIN, AIX]

function(a|n|c|d|e) [MVS, 400]

authority(p|a|g)

definename(define alias name 1)

account(account 1) userid(user ID 1)

or

sysid(system ID 1) account(account 1) userid(user ID 1)

or

alias(alias 1) aliasname(alias name 1)

:

definename(define alias name n)

account(account n) userid(user ID n)

or

sysid(system ID n) account(account n) userid(user ID n)

or

alias(alias n) aliasname(alias name n);

aliastable ニックネーム・テーブルのタイプとテーブル名を表します。

- gxxx** グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
- oxxx** オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
- pxxx** プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

DEFINEALIAS

function	ニックネーム・テーブル対して行なう操作の種類を表します。
a	これに続く項目をニックネーム・テーブルに追加します。 これは省略時値です。
n	ALIASTABLE パラメーターで指定された名前で新しいニックネーム・テーブルを作成します。
c	これに続く項目をニックネーム・テーブルで変更します。
d	これに続く項目をニックネーム・テーブルから削除します。テーブルの全項目を指定すると、オプション e と同じ結果を得ます。
e	ニックネーム・テーブル全体を消去します。FUNCTION で e を指定すると、他のいかなるパラメーターも DEFINEALIAS コマンドで使用できません。

注：n を指定し、同じ名前のニックネーム・テーブルがすでに存在する場合は、IE/EX はメールボックスにシステム・エラー・メッセージを入れ、テーブルは更新されません。

authority	参照するニックネーム・テーブルの権限を表します。FUNCTION が n に指定されている場合にのみ、権限が有効です。既存のテーブルの権限を変えることはできません。
p	テーブルの所有者だけがニックネーム・テーブルを更新できます(省略時値)。
a	顧客コード内のサービス管理責任者がニックネーム・テーブルを更新できます。
g	すべてのユーザーがニックネーム・テーブルを更新できます。プライベート・ニックネーム・テーブルかオーガニゼーション・ニックネーム・テーブルを定義する場合は、権限として、g を指定できません。
definename	ALIASTABLE で指定されたテーブルで追加、変更、削除するニックネームを表します。1-16 文字の英数字で指定します。
sysid	IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合のみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。
account	IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。
userid	IE/EX ユーザーのユーザー ID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのパラメーターを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

DEFINE ALIAS

alias

ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。

空白 ニックネームを使用しません (省略時値)。

gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

oxxx オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

aliasname

ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブルのニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。

END

ENDコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

END コマンドは、IE/EX セッションを終了するのに使用します。

END コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RETURN レコードです。

END コマンドは、パラメーターが一切ありません。次のとおりに入力してください。

end;

注：プロファイル・コマンドにおいて TRANSMIT で AUTOEND(y)を指定すると、IE/EX セッションを自動的に終了させるので、メッセージ・コマンドで END を指定できません。メッセージ・コマンドで END を指定して、プロファイル・コマンドにおいて AUTOEND の値に y を指定すると、エラーを受け取ります。

GETMEMBER コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

GETMEMBER コマンドは、既存の IE/EX ライブラリーから IE/EX メールボックスにメンバーをコピーするのに使用します。

メンバーは、GETMEMBER コマンドが完了すると同時に、メールボックスから受信できます。メールボックスからメンバーを受信するには、RECEIVE コマンドを指定します。[MVS, 400] RECEIVESTREAM コマンドでも可能。

GETMEMBER コマンドで宛先を空白にしておくと、省略時値としてユーザー自身のメールボックスが指定されます。

ユーザーが MSGNAME、MSGSEQNO、CLASS パラメーターを指定しないと、メンバーがライブラリーに保管されたときのままの値になります。

ユーザーがライブラリーへのアクセス権限を持っていなかったり、ライブラリーが存在しない場合、あるいはメンバーがライブラリー内に存在しない場合は、GETMEMBER コマンドに対して警告レコードを受け取ります。他の IE/EX システム上のライブラリーからメンバーを受け取ることはできません。

GETMEMBER コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RETURN レコードです。

GETMEMBER コマンドの構文例を以下に示します。

getmember

library(library name)

member(member name)

owner(library account)

account(account) userid(user ID)

or

sysid(system ID) account(account) userid(user ID)

or

alias(alias) aliasname(alias name) [WIN, MVS, AIX, 400]

or

listname(list name)

msgname(message name)

msgseqno(message sequence number)

class(class)

charge(1|3|5|6) [WIN, AIX, MVS]

charge(1|3|5|6) [400]

ack(**blank**|a|b|c|d|e|f|r)

retain(retention period);

GETMEMBER

library	IE/EX がメンバーをコピーするライブラリーを表します。1-8 文字の英数字で指定します。
member	IE/EX がライブラリーからコピーするライブラリー・メンバーを表します。 1-8 文字の英数字で指定します。
owner	ライブラリー・オーナーの顧客コードを表します。オーナーの顧客コードは、異なる顧客コードに対して同じ名前の属性をもつライブラリーを区別するために使われます。 省略時値は、ユーザー自身の顧客コードです。1-8 文字の英数字で指定します。
sysid	メンバーを受信する IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE/EX システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合にのみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。
account	メンバーを受信する IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。省略時値はユーザー自身の顧客コードです。
userid	メンバーを受信する IE/EX ユーザーのユーザー ID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにフィールドを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。省略時値はユーザー自身のユーザー ID です。
alias	ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、メンバーを受信するユーザーを指定します。 空白 ニックネームを使用しません (省略時値) gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。 oxxx オーガニゼーション・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。 pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

[WIN, MVS, AIX, 400]

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

注：ニックネーム・テーブルの作成と保守には 2 つの方法があります。

1. IE/EX サービス管理責任者機能を使用する(「IE/EX サービスサービス管理責任者ご利用の手引き」を参照)。
2. DEFINEALIAS コマンドを使う。

GETMEMBER

aliasname	ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブルのニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、メンバーを受信するユーザーを特定します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。
listname	顧客コードとユーザーID のデリバリー・リスト名を表します。このフィールドを使ってメンバーを受信するユーザーのリストを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。
msgname	識別子としてファイルに割り当てる名前を表します。メンバーがライブラリーに入られると、発信者で使用されていた MSGNAME にこの名前が上書きされます。MSGNAME を指定しないと、メンバーがライブラリーに保管された時に指定された MSGNAME が省略時値になります。1-8 文字の英数字で指定します。
msgseqno	ファイルに割り当てる制御番号を表します。メンバーがライブラリーに入られると、発信者で使用されていた MSGSEQNO にこの番号が上書きされます。MSGSEQNO を指定しないと、メンバーがライブラリーに保管された時に指定された MSGSEQNO が省略時値になります。1-5 文字の英数字で指定します。
class	ファイルに割り当てるユーザー・クラスを表します。受信者はこの名前を使って、このクラスのファイルだけを受信できます。メンバーがライブラリーに入られると、送信者が使用していたクラスに、このクラスが上書きされます。1-8 文字の英数字で指定します。[WIN,AIX] クラスを指定しないと、メンバーがライブラリーに保管された時に指定されたユーザー・クラスが省略時値になります。[MVS, 400] 省略値はブランクです。
charge	受信者が希望する受信料金の支払方法を IE/EX に示します。 1 受信者が支払いを行います。 3 [400] 受信者の同意に基づいて、受信者が受信料金の支払いを行います。そうでない場合は、ライブラリー所有者が支払います。これは省略時値です。 5 [WIN, AIX, MVS] ライブラリー所有者の同意に基づいて、ライブラリー所有者が受信料金の支払いを行います。そうでない場合は、受信者が支払います。これは省略時値です。 6 ライブラリー所有者が受信料金の支払いを行います。

注：< IE / EX >では、パートナー登録で行っています。詳細は、IE / EX サービス概説書の「料金負担」を参照してください。

GETMEMBER

- ack** 受信する確認メッセージの種類を表します。IE/EX は、ユーザーのメールボックスに以下に示す確認メッセージを入れます。
- 空白 確認メッセージを作成しません。
 - a 廃棄確認メッセージだけを作成します。
 - b 到着確認メッセージとデリバリー確認メッセージの両方を作成します。
 - c 到着確認メッセージと廃棄確認メッセージの両方を作成します。
 - d デリバリー確認メッセージだけを作成します。
 - e 廃棄確認メッセージかデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
 - f 到着確認メッセージと、廃棄確認メッセージまたはデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
 - r 到着確認メッセージだけを作成します。

注：ライブラリー・オーナーがメンバーの受信料金を支払う場合は、ライブラリー・オーナーが確認メッセージを受け取ります。そうでない場合は、GETMEMBER 要求を出す者が確認メッセージを受け取ります。

注：< IE / EX > の @ S T A T A S の作成は、ユーザープロファイルでの設定が前提となります。

- retain** メールボックスからの受信が行なわれない場合に、IE/EX がメールボックスにファイルを保持する日数を表します。保管期間の最大日数と省略時値は、それぞれの IE/EX システムによって異なります。一般に保管期間の省略時値は 30 日です。これらの値に関する詳細は、弊社 EDI 販売担当員にお問い合わせください。有効な値はブランクか 0-180 です。
ユーザーが 0 またはブランクを指定すると、省略時値になります。

注：現在、< IE / EX > < 国際 IE > とともに最高期間は、30 日までです。

LIST コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

LIST コマンドは、ファイルの送受信に用いる顧客コードとユーザーID のデリバリー・リストを作成するのに使用します。

LIST コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RETURN レコードです。

LIST コマンドの構文の例を以下に示します。行の間の点は、顧客コード、ユーザーID、ニックネームを必要なだけいくらかでも入力できることを意味します。

```
list
listname(list name) [WIN, MVS, AIX, 400]
function(n|a|d|e) [WIN]
function(n|a|d|e) [AIX]
function(n|a|d|e) [MVS, 400]
listtype(t|p|a|g)

account(account 1) userid(user ID 1)
      :
alias(alias 1) aliasname(alias name 1)
      :
alias(alias n) aliasname(alias nmae n)
      :
sysid(system ID n) account(account n) userid(user ID n);
```

LIST コマンドでは、デリバリー・リスト作成に必要な ALIAS および ALIASNAME 項目、ACCOUNT および USERID を好きなだけ指定できます。通常、コマンドのパラメーターの指定順序は自由ですが、以下に示す制約があります。

- ・LIST コマンドは、ACCOUNT および USERID と、SYSID、ACCOUNT および USERID、それに ALIAS および ALIASNAME を含んでいなければなりません。これらの項目は、正しく対にしなければなりません。
- ・SYSID パラメーターを指定する場合は、SYSID に対応する ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターの前かその間に指定します。ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターの後ろには指定できません。

LIST

・function パラメーターA (項目追加)、D (項目削除)、N (新規リスト)には最低1つの項目が必要です。function Eには一切入力できません (リスト全体を消去する)。

注: [WIN] 新しいリストを作成するために FUNCTION(n)を指定した場合、[AIX, MVS, 400] セッション・レベル・リカバリーを使ってLISTコマンドを使用する場合、同一セッション内で同一のリスト名がすでに存在する場合は、新しく定義されたリストによって、既存のリストの内容が上書きされます。

function ニックネーム・テーブルに対して行なう操作の種類を表します。これは必須パラメーターです。[MVS, 400] 必須項目ではありません。

- n** LISTNAME パラメーターで指定される名前で新しいニックネーム・テーブルを作成し、リストに項目を追加します。
[WIN, MVS, 400] これが省略値になります。
- a** これに続く項目をテーブルに追加します。
- d** これに続く項目をテーブルから削除します。テーブルの全項目を指定すると、オプション e と同じ結果を得ます。
- e** ニックネーム・テーブル全体を消去します。

listname 顧客コードとユーザーID のリスト名を表します。1-8 文字の英数字で指定します。これは必須パラメーターです。

listtype リストのタイプを表します。

- t** テンポラリー・リスト。セッションが終了すると削除されます。これは省略時値です。
- p** プライベートなパーマネント・リスト。
- a** 顧客コード内の全ユーザーがアクセスできるパーマネント・リスト。
- g** 顧客内のグループのパーマネント・リスト。これは、他のユーザーとの通信を制限するのに使用されます。詳細は、IE/EX サービス管理責任者機能を参照してください。

account IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

userid IE/EX ユーザーのユーザーID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのパラメーターを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、データを送信した先のユーザーを指定します。

空白 ニックネームを使用しません（省略時値）。
 gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3 文字のテーブル名。
 oxxx オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3 文字のテーブル名。
 pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3 文字のテーブル名。

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

注：ニックネーム・テーブルの作成、保守には 2 つの方法があります。

1. IE/EX サービス管理責任者機能を使用する（「IE/EX サービス サービス管理責任者ご利用の手引き」を参照）。
2. DEFINEALIAS コマンドを使う

aliasname ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブル中のニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。

sysid IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE/EX システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合のみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。

LISTLIBRARIES

LISTLIBRARIES コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

当該ユーザーがアクセスできる I E / E X ライブラリーをリストします。

コマンドの使用方法

listlibraries

authority(w|r)

selection(a|c)

owner(library owning account);

authority リストするライブラリーのアクセス権限を指定します。

w write/update のアクセス権限。省略時値です。

r read のアクセス権限。

注：SELECTION(c)を指定すると AUTHORITY パラメーターを無視します。

selection ライブラリー・リストの範囲を指定します。

a 特定の所有顧客コードのライブラリー・リスト。省略時値です。

c すべてのライブラリー・リスト。

owner SELECTION(a)を指定する場合、所有顧客コードを指定します。省略時値はユーザーの顧客コードです。SELECTION(c)を指定した場合は、このパラメーターは無視されます。[WIN, AIX] 1-8 文字の英数字で指定します。

LISTMEMBERS コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

当該ユーザーがアクセスできる IE / EX ライブラリー内のメンバーをリストします。

コマンドの使用方法

listmembers

owner(library owning account)

library(library name);

- | | |
|----------------|---|
| owner | ライブラリーを所有する顧客コードを指定します。省略時値は ACCOUNT コードです。 |
| library | リストするメンバーのライブラリー名を指定します。そのライブラリーに対し、READ のアクセス権限が必要です。必須パラメーターです。
[WIN, AIX] 1-8 文字の英数字で指定します。 |

LISTVERIFY

LISTVERIFYコマンド (MVS, 400)

LISTVERIFY コマンドを使って、リストに関する情報を知ることができます。IE/EX サービスは、LISTVERIFY コマンドに対する応答を、顧客コード*SYSTEM*、ユーザーID*LSTRSP*、ユーザー・クラス LISTS のメッセージとして IE/EX メールボックスに蓄積します。

LISTVERIFY コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
listverify  
listname(list name)  
function(l|d|c|a|r|s|b)  
charge(1|2|3|4|5|6);
```

listname 検査を希望する定義済みリストの名前。1-8 文字の英数字を使ってください。

function オペレーションのタイプ。このパラメーターは必須です。

注：a と b 以外の機能を選択している場合には、LISTNAME パラメーターは必須です。

- 1 プライベート・パーマメント・リストのユーザーを一覧します。LISTNAME パラメーターにリストの名前を指定してください。これにより 20 文字の宛先 ID を持ったメッセージが作成されます。フォーマットは、英数字、左詰め、右空白充填です。各宛先 ID 毎に、20 バイトの内容は以下のとおりです。
 - 1 文字目 (コード化値)
これは、以下のように、宛先が IE/EX 宛先か、ニックネーム ID エントリーかを示します。
 - ・g グローバル・ニックネーム・テーブルの参照
 - ・o オーガニゼーション (顧客コード)・ニックネーム・テーブル
 - ・p プライベート・ニックネーム・テーブル
 - ・i システム間宛先
 - ・blank 実際の IE/EX 宛先の参照
 - 2 - 4 文字目 (英数字)
1 文字目が g, o, p である場合、このフィールドは、5 - 20 文字目を与えられたニックネームが存在するニックネーム・テーブルの名前です。1 文字目が i の場合、これはシステム ID です。1 文字目が空白の場合、この文字は使用されません。
 - 5 - 20 文字目 (英数字)
1 文字目が g, o, または p の場合、このフィールドは、16 文字のニックネームを表します。1 文字目が空白または i の場合、このフィールドは希望する宛先の IE/EX 顧客コード (5-12 文字目) とユーザー ID (13-20 文字目) を表します。

注：LISTNAME パラメーターは、このオプションを選択している場合、必須です。

LISTVERIFY

- d ユーザーの属するすべてのプライベート・パーマネント・リストを一覧します。IE/EX サービスは、8文字のリスト名からなるメッセージを作成します。

注：LISTNAME パラメーターは、このオプションを選択している場合、無効です。

- c ある顧客コードまたはグループ・レベル・リストのユーザーを一覧します。LISTNAME パラメーターでリスト名を指定してください。IE/EX サービスは、FUNCTION(L)パラメーターで使用されたのと同じ構文（ニックネーム・テーブル・タイプ、テーブル名、IE/EX 宛先）で20文字ユーザーID からなるメッセージを作成します。

注：LISTNAME パラメーターは、このオプションを選択している場合、必須です。

- a ユーザーの顧客コードに属するすべてのパーマネント・リストを一覧します。IE/EX サービスは、8文字のリスト名からなるメッセージを作成します。

注：LISTNAME パラメーターは、このオプションを選択している場合、無効です。

- r LISTNAME パラメーターで指定したリストにあるすべてのユーザーからメッセージを受信できるかどうか検査します。リストのユーザーID がチェックされ、以下のことが判断されます。
- IE/EX サービスに登録されているか
 - ユーザーID にメッセージを送信する権限を持っているか

注：LISTNAME パラメーターは、このオプションを選択している場合、必須です。IE/EX サービスは、リスト中の受信できないユーザーID に対してはシステム・エラー・メッセージを作成します。メッセージを受信できる場合には、メールボックスに応答を受信することはありません。

- s LISTNAME パラメーターで指定したリストにあるすべてのユーザーにメッセージを送信できるかどうか検査します。リストのユーザーID がチェックされ、以下のことが判断されます。
- IE/EX サービスに登録されているか
 - ユーザーのユーザーID からのメッセージを受信する権限を持っているか

注：LISTNAME パラメーターは、このオプションを選択している場合、必須です。IE/EX サービスは、リスト中の送信できないユーザーに対してはシステム・エラー・メッセージを作成します。メッセージを送信できる場合には、メールボックスに応答を受信することはありません。

LISTVERIFY

- b LISTNAME パラメーターで指定したリストのすべてのユーザーのメッセージを送受信できるかどうかを検査します。

注：LISTNAME パラメーターは、このオプションを選択している場合、必須です。IE/EX サービスは、リスト中の送受信できないユーザーに対してはシステム・エラー・メッセージを作成します。メッセージを送受信できる場合には、メールボックスに応答を受信することはありません。

charge

課金分担を検査させたい場合には、ここで課金分担を指定してください。メッセージを送信する際に、SEND, SENDEDI, SENDSTREAM コマンドで使用する予定のパラメーターを指定してください。メッセージを受信する際に、パートナーが SEND, SENDEDI, SENDSTREAM コマンドで使用するのと同じ CHARGE パラメーターを指定してください。このパラメーターを指定しない場合には、課金分担を検査しません。1文字の数字を使ってください。

- 1 受信者がすべての課金を支払う。
- 2 受信者が同意した場合、受信者がすべての課金を支払う。それ以外の場合、送信者と受信者が課金を分割して支払います。
- 3 受信者が同意した場合、受信者がすべての課金を支払う。同意しなかった場合、送信者と受信者が課金を分割して支払います。それ以外の場合は、送信者がすべての課金を支払います。
- 4 受信者が同意した場合、送信者と受信者が課金を分割して支払います。それ以外の場合は、送信者がすべての課金を支払います。
- 5 送信者と受信者が課金を分割して支払うことを示しています。
- 6 送信者がすべての課金を支払うことを示しています。

注：< IE / EX > では、パートナー登録で行っています。詳細は、IE / EX サービス概説書の「料金負担」を参照してください。

MSGINFO コマンド (MVS, 400)

MSGINFO コマンドを使って、現在メールボックスで取り出せるメッセージに関する情報を取得します。

MSGINFO コマンドの結果として応答ファイルに MSGRESP レコードを入れます。

MSGRESP レコードには取り出せるメッセージについての簡潔な情報が含まれています。QUERY コマンドを使って、詳細情報を入手できます。

MSGINFO コマンドには、パラメーターはありません。以下のように入力してください。

msginfo;

PURGE

PURGE コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

受信者が I E / E X メールボックスのファイルを削除することができます。

PURGE コマンドを使用する為には、サービス管理者によりユーザー・プロファイルのメッセージ削除フラグに Y を設定しなければなりません。

PURGE コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RETURN レコードです。

PURGE コマンドの構文例を以下に示します。

```
purge  
msgkey(message key);
```

msgkey 削除したいファイルの 20 文字のメッセージ・キーを指定します。メッセージ・キーは、QUERY コマンドの応答レコードである AVAILABLE レコードに戻ります。

PUTMEMBERコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

PUTMEMBER コマンドは、既存の IE/EX ライブラリーにメンバーを追加するのに使用します。

[WIN, AIX] PUTMEMBER コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、MEMBERPUT レコードと RETURN レコードです。

PUTMEMBER コマンドの構文例を以下に示します。

```

putmember
library(library name)
member(member name)
fileid(file ID)
owner(library owner account)
replace(n|y)
format(n|y)
class(class)
ack(blank|d) [WIN, AIX, MVS]
ack(blank|a|d|e) [400]
msgname(message name)
msgseqno(message sequence number)
datatype(a|b) [WIN, AIX]
datatype(e|b) [MVS, 400]
truncate(n|y) [MVS, 400]
delimit(n|c|i) [MVS]
delimit(n|c) [400]
crlfeof(crlfeof) [MVS, 400]
delimited(n|y) [WIN, AIX]
verify(n|y)
description(description)
translate(translate table) [WIN, AIX]
destfile(destination file name) [WIN, AIX, MVS]
destloc(destination file location); [WIN, AIX, MVS]

```

library 更新するライブラリーの名前を表します。1-8文字の英数字で指定します。

member ライブラリーに追加するメンバーの名前を表します。1-8文字の英数字で指定します。

PUTMEMBER

fileid ユーザーが送信するファイルの名前を表します。[MVS] 受信するファイルを定義しているDD名かデータセット名を表します。
[WIN, MVS] 1-54文字の英数字で指定します。
[AIX] 1-128文字の英数字で指定します。
[400] 1-33文字の英数字で指定します。(例) ライブラリー名/ファイル名(メンバー名)

owner ライブラリー所有者の顧客コードを表します。省略時値はユーザー自身の顧客コードです。1-8文字の英数字で指定します。

replace ライブラリーに追加するメンバーと同一の名前を持つメンバーが、すでにライブラリー内にあった場合に、それを置き換えるかどうかを表します。

n ライブラリーに追加するメンバーと同一の名前を持つメンバーを置き換えません。これが省略時値です。

注：[WIN, AIX] REPLACE(n)を指定して、メンバーがすでに存在する場合は、データは送られますが削除されます。そしてシステム・エラー・メッセージをメールボックスに受け取ります。

y ライブラリーに追加するメンバーと同一の名前を持つメンバーを置き換えます。

format [WIN, AIX] データをファイルとしてか、または電子メール形式としてかのいずれで送信するかを表します。

n 電子メール形式にしないでデータを送信します(省略時値)。
y 電子メール形式でデータを送信します。これはレコード長が79バイト固定長であることを意味します。79バイトに満たない分は、空白でパディングされます。このオプションとともに DATATYPE(b)、DELIMITED(y)を指定することは出来ません。

[MVS, 400] データをファイルとしてか、またはフリー・フォーマット形式としてかのいずれで送信するかを表します。

n フリー・フォーマット形式にしないでデータを送信します(省略時値)。
y フリー・フォーマット形式でデータを送信します。これはレコード長が79バイト固定長であることを意味します。79バイトに満たない分は、空白でパディングされます。このオプションとともに DATATYPE(b)、DELIMIT(c)、DELIMIT(i)を指定することは出来ません。

class 送信するファイルのユーザー・クラスを表します。1-8文字の英数字で指定します。

注：[MVS, 400] FORMAT(y)を指定している場合、ffmsg001に省略値に設定し、それ以外の場合 blank を省略時の設定にします。

ack	受信する確認メッセージの種類を表します。IE/EX は、以下に示す確認メッセージをユーザーのメールボックスに入れます。
	空白 確認メッセージを作成しません。
d	デリバリー確認メッセージのみ作成します。IE/EX がデータをライブラリーに配布しユーザーがリカバリー・ポイント達したときに確認メッセージは、コマンドを発行したユーザーのメールボックスに蓄積されます。
a	[400] 廃棄確認メッセージのみ作成します。
e	[400] 廃棄確認メッセージかデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
	[WIN, AIX] 詳細は、Programming Guide の “ Using acknowledgments ” を参照してください。
	注： < I E / E X > の @ S T A T A S の作成は、ユーザープロファイルでの設定が前提となります。
msgname	識別子としてファイルに割り当てる名前を表します。1-8 文字の英数字で指定します。
msgseqno	ファイルに割り当てる制御番号を表します。1-5 文字の英数字で指定します。
datatype	[WIN, AIX] データがテキストかバイナリーのいずれであるかを表します。
	a テキスト・データ (省略時値)
	b バイナリー・データ
	[MVS, 400] データがテキストか EBCDIC のいずれであるかを表します。ASCII システムはデータを受信した際、EBCDIC から ASCII に変換します。
	e E B C D I C データ (省略時値)
	b バイナリー・データ
truncate	IE/EX サービスに送信する前に、各レコードの後続の空白を除去させたいかどうかを示すのに使用するオプション。
	y 後続空白を切り捨てします。
	n 後続空白を切り捨てません。これは省略時値です。

PUTMEMBER

- delimit** ファイルのレコード構造の保存方法を指定するのに使用するオプション。適切な区切り文字タイプをデータに挿入し、受信者が使用するために、適切な情報を CDH に入れます。
- n** レコード区切り文字を持たないレコードを送信する。これは省略時値です。
- c** CRLF 文字によって区切られたレコードを指定する。X'0D0A'を各レコードの最後に挿入し、レコード構造を示します。ファイルを X'1A'で終了します。CRLFEOF 文字を CRLFEOF パラメーターに置き換えることもできます。
- l** [MVS] レコード構造を表わすために、各レコードの先頭に 2 バイト長の標識を挿入する。
- crleof** DELIMIT(c)オプションと共に使用する復帰改行、ファイルの終り文字を再定義するのに使用するオプション。標準 IE/EX 変換テーブル以外の変換テーブルを使って受信する PC に対して送信する際に、このパラメーターが必要となります。6 文字の 16 進数を使ってください。省略時値は 0D0A1A です。
- delimited** [WIN] データを復帰改行 (CRLF) 文字で区切るかどうかを表します。
[AIX] データを改行文字 (LF) 文字で区切るかどうかを表します。
- n** レコードは CRLF 文字、または LF 文字によって区切られません。
- y** [WIN] レコードが CRLF 文字によって区切られます。
[AIX] レコードが LF 文字によって区切られます。そのデータを送信時には復帰文字 (CR) 前に挿入され CRLF 文字によって区切られます。
よって、AIX 以外のシステムでファイルを受信してもそのまま使うことが出来ます。
省略時値は、テキストが y、バイナリーが n です。
- verify** ファイルを送信する前に、ライブラリーが定義されていること、またはユーザーにライブラリーを更新する権限があることを検査するかどうかを表します。他のシステムに常駐するライブラリーを検査することはできません。
- n** ライブラリーの定義について、またはユーザーの権限についての検査を行いません (省略時値)。
- y** ファイルを送信する前に、ライブラリーの定義について、またはユーザーの更新権限についての検査を行います。ライブラリーが存在しないか、あるいはユーザーが更新権限を持っていないければ、ファイルは送信されず、このコマンドに対する WARNING レコードが出力ファイルに表示されません。
- VERIFY パラメーターを使用するときは、検査要求に対して課金されません。
- description** ファイルに関するフリー・フォーマットの記述を提供します。1-79 文字の英数字で指定します。CDH をサポートする受信側インターフェースにのみ記述が提供されません。CDH に関する詳細は、Programming Guide の “Common data header” を参照してください。

PUTMEMBER

- translate** 標準の ASCII から EBCDIC への変換テーブルを上書きする変換テーブルを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。この値に接尾語 .xlt を付加して、変換テーブルを含むファイルの名前を作成します。このパラメーターを指定しないと、TRANSMIT コマンドで指定されたテーブルを使用します。TRANSMIT コマンドでも TRANSLATE が指定されていない場合は、省略時値の IE/EX 変換テーブルを使用します。
- destfile** ファイル名を指定します。CDH にオリジナル・ファイル名として入ります。受信者が、ワークステーションの場合は、RECEIVE あるいは RECEIVEEDI コマンドの ORGFILE(Y)を指定することにより、このファイル名で保管します。このファイル名が受信者のシステムに合わない場合は、RECEIVE あるいは RECEIVEEDI コマンドの FILEID パラメーターの値を使用します。省略時は、SEND、SENDEDI あるいは PUTMEMBER コマンドの FILEID をオリジナル・ファイル名として使用します。1-54 文字です。
- destloc** CDH のファイル・ロケーションを指定します。受信した場合、RECEIVE あるいは AVAILABLE レコードで値がわかります。また、受信者の IE/EX メールボックスでも値がわかります。省略時は、送信者のシステムのファイル・ロケーションを使用します。1-65 文字です。

QUERY

QUERYコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

QUERY コマンドは、IE/EX メールボックス内のすべてのファイルのリストを返すのに使用します。

QUERY コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、下記に参照します。

[WIN, AIX] AVAILABLE レコード、RETURN レコード

[MVS, 400] AVAILABLE レコード

メールボックス内の各ファイルに対して AVAILABLE レコードを記述します。

[WIN, AIX] Programming Guide の “ AVAILABLE record ” を参照してください。

QUERY コマンドの構文例を以下に示します。

query

cdh(y|n);

cdh	応答に CDH 情報を含ませるかどうかが表します。
y	応答に CDH 情報を含みます (省略時値)。
n	応答に CDH 情報を含みません。

R E C E I V E コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

RECEIVE コマンドは、IE/EX メールボックスからファイルを受信するのに使用します。

RECEIVE コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RECEIVED レコードと RETURN レコードです。

RECEIVE コマンドの構文例を以下に示します。

receive

alias(alias) aliasname(alias name)

or

sysid(system ID) account(account) userid(user ID)

or

account(account) userid(user ID)

or

listname(list name)

or

requeued(n | y)

fileid(file ID)

format(n | y)

class(class)

archiveid(archive ID)

multifiles(n | y) [WIN, AIX]

origfile(n | y) [WIN, AIX]

recordsize(record size) [WIN, AIX]

processlen(c | r | i) [WIN, AIX]

autoedi(y | n) [WIN, AIX]

autoedi(y | n) [MVS, 400]

ediopt(y | n)

delimited(n | y) [AIX]

delimited(c | l | n) [MVS, 400]

dloverride(y | n) [MVS, 400]

endstr(endstr) [MVS, 400]

resrecl(e | s) [MVS, 400]

translate(translate table) [WIN, AIX]

removeof(n | f) [WIN]

allfiles(y | n)

nonedionly(n | y)

msgkey(message key)

startdate(starting date)

RECEIVE

starttime(starting time)

enddate(ending date)

endtime(ending time)

timezone(l|g) [WIN, MVS, AIX, 400]

wait (wait time) ; [WIN, AIX]

注：データ圧縮ソフトウェアを使用し、圧縮データを受信する際は、使用できないパラメータがあります。Programming guide の “ Using data compression ” を参照して下さい。

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメータとともにこのフィールドを使って、受信するデータの送信元ユーザーを指定します。

空白 ニックネームを使用しません（省略時値）

gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

oxxx オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名

pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

ALIAS パラメータを指定する場合は、ALIASNAME パラメータを指定しなければなりません。ALIAS パラメータは、1-4 文字の英数字で指定します。

注：ニックネーム・テーブルの作成、保守には 2 つの方法があります。

1. IE/EX サービス管理責任者機能を使用する（「IE/EX サービス サービス管理責任者ご利用の手引き」を参照）
2. DEFINEALIAS コマンドを使う

aliasname ALIAS パラメータで指定したニックネーム・テーブル中のニックネームを表します。ALIAS パラメータとともにこのフィールドを使って、受信するデータの送信元のユーザーを指定します。ALIASNAME パラメータを指定する場合は、ALIAS パラメータも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメータは、1-16 文字の英数字で指定します。

sysid 受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメータと USERID パラメータを指定する場合にのみ、システム ID が必要です。SYSID パラメータを指定する場合は、ACCOUNT パラメータと USERID パラメータを指定しなければなりません。SYSID パラメータは、1-3 文字の英数字で指定します。

account 受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメータとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメータを指定する場合は、USERID パラメータも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメータは、1-8 文字の英数字で指定します。

R E C E I V E

userid	受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーのユーザーID を表します。ACCOUNT パラメーターとともに このフィールドを使って、ユーザーを指定します。USER ID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。
listname	顧客コードとユーザーID のリスト名を表します。このフィールドを使って、受信するデータの送信元のユーザーのリストを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。
requeued	<p>保管ファイルから取り出されたファイルのみを受信するかどうかを表します。</p> <p>n このコマンドの受信仕様を使って、全ファイルをメールボックスから受信します（省略時値）。</p> <p>y 保管ファイルから取り出されたファイルのみを受信します。y を指定すると RECEIVE コマンドで IE/EX の SYSID、ACCOUNT、USERID、ALIAS、ALIASNAME、LISTNAME を指定することができません。</p>
fileid	<p>受信データを入れるファイル名を表します。[MVS] 受信するファイルを定義している DD 名かデータセット名を表します。</p> <p>[WIN, MVS] 1-54 文字の英数字で指定します。</p> <p>[AIX] 1-128 文字の英数字で指定します。</p> <p>[400] 1-33 文字の英数字で指定します。（例）ライブラリ名/ファイル名（メンバー名）</p>
format	<p>[WIN, AIX] データをファイルとしてか、または電子メール形式としてかのいずれで受信するかを表します。詳細は、Programming Guide の “ Sending and receiving e-mail ” を参照してください。</p> <p>n 電子メール形式にしません（省略時値）。</p> <p>y 電子メール形式にします。これはレコード長が 79 バイト固定長であることを意味します。</p> <p>[MVS, 400] データをファイルとしてか、またはフリー・フォーマット形式としてかのいずれで送信するかを表します。詳細は、Programming Guide の “ Free-format messages ” を参照してください。</p> <p>n フリー・フォーマット形式にしません（省略時値）。</p> <p>y フリー・フォーマット形式にします。これはレコード長が 79 バイト固定長であることを意味します。</p>

RECEIVE

class	<p>受信ファイルのユーザー・クラスを表します。このユーザー・クラスによって、ファイルに受信するファイルを制限することができます。1-8 文字の英数字で指定します。</p> <p>疑問符 (?) をワイルドカード文字として使用できます。例えば、AB1 で始まるユーザー・クラスを持つ全てのファイルを受信するには、AB1? と入力します。</p> <p>999 で終わるユーザー・クラスを持つ全てのファイルを受信するには、?999 と入力します。</p> <p>format(y) を指定すると、省略時値ユーザー・クラスは、電子メール、フリー・フォーマットのために予約された ffmsg001 になります。</p> <p>format(n) を指定すると、すべてのユーザー・クラスを示す空白が省略時値になります。</p>
archiveid	<p>受信ファイルに割り当てる保管ファイル参照キーを表します。IE/EX のプロファイルで、ファイルの保管が指定されていれば、IE/EX はこの保管ファイル ID でファイルを保管します。この保管ファイル ID は、後でこのファイルのコピーをユーザーのメールボックスに戻す時に ARCHIVEMOVE で使用できます。1-8 文字の英数字で指定します。</p>
multifiles	<p>複数のファイルを、受信する際に、別々のファイルとして受け取るか、1 つの連結したファイルとして受け取るかを表します。</p> <p>n 単一ファイルに全受信ファイルを連結して受け取ります (省略時値)。</p>
	<p>注：単一ファイルに全ての受信ファイルを連結する場合は、Programming Guide の RECEIVE コマンドの REMOVEOF オプションを参照してください。</p>
	<p>y 2 番目以降に受信するファイルに対して新しい個別のファイルを作成します。新しいファイル名は、.002 から番号付けされるファイル拡張子で生成されます。</p> <p>1000 個以上のファイルを受信する場合、拡張子は 4 桁になります。</p> <p>10000 個以上のファイルを受信する場合、拡張子は 5 桁になります。</p> <p>100000 個以上のファイルを受信する場合、拡張子.ovf を持つファイルに保管されます。</p>
origfile	<p>送信側システムで使用されている元の名前を使って、データをファイルに受信するかどうかを表します。</p> <p>n FILEID で指定されるファイルにすべてのデータを受け取ります(省略時値)。</p> <p>y CDH で指定される元のファイル名がファイル・システムに対して有効であれば、ファイルを元のファイル名で受け取ります。</p>

recordsize	<p>指定された間隔でデータに CRLF 文字 (AIX の場合は LF 文字) を挿入して、EDI データを固定長レコードに分割するかどうかを表します。このオプションは、EDIOPT が n で AUTOEDI が y である場合にのみ有効です。</p> <p>000 ファイルに CRLF 文字 (AIX の場合は LF 文字) を挿入しません (省略時値)。</p> <p>nnn nnn 文字ごとに CRLF (AIX の場合は LF 文字) 文字を挿入します (nnn は 1-999 の数字)。</p> <p>注：このパラメーターは、CDH なしで送られるファイルに対しては何も行ないません。CDH に関する詳細は、Programming Guide の “Comon data header” を参照してください。</p>
processlen	<p>各レコードの先頭の長さ区切り文字の処理を制御します。長さ区切り文字によって各レコードの先頭を区切ることが CDH で指定されている場合にのみ、このパラメーターを使用します。</p> <p>c 長さ区切り文字を CRLF 区切り文字に変換します (省略時値)。</p> <p>r データから長さ区切り文字を取り除きます。</p> <p>I データの長さ区切り文字を無視します。</p> <p>注：このパラメーターは、CDH なしで送信されたファイルに対しては何も行ないません。CDH に関する詳細は、Programming Guide の “Comon data header” を参照してください。</p>
autoedi	<p>ファイルが EDI 形式であると CDH に示されている場合に、そのファイルに対して自動的に EDI 処理を行なうかどうかを表します。</p> <p>y ファイルが EDI 形式であると CDH に示されている場合に、自動的に EDI 処理を行います (省略時値)。</p> <p>n いずれのファイルにも EDI 処理を行いません。</p> <p>注：このパラメーターは、CDH なしで送信されたファイルに対して何も行いません。CDH に関する詳細は、Programming Guide の “Comon data header” を参照してください。</p>
ediopt	<p>EDI ファイルの各セグメント区切り文字の後に CRLF を加えるかどうかを表します。受信メッセージが EDI データであることが CDH に示されておらず、AUTOEDI が y に設定されていれば、このオプションを無視します。</p> <p>y ファイルが EDI データであると CDH に示されていれば、[WIN] の(省略時値) セグメント区切り文字の後に CRLF を付加します。[AIX]の(省略時値) セグメント区切り文字の後に LF を付加します。[MVS, 400]の(省略時値) EDI セグメントの最後でレコードを分割します。</p> <p>n EDI ファイルの各セグメントに何もしません。</p>

RECEIVE

delimited

[AIX] データを CRLF (復帰改行、16 進数:0A0D) 文字で区切られているかどうかを表します。

y ファイル内のレコードは CRLF 文字で区切られています。全ての ASCII ファイルは、IE/EX の中では、PC 環境でレコードの区切り文字としてよく使われている CRLF 文字によってレコードが区切られた状態で保管されています。その結果、AIX 以外のシステムでファイルを受信しても、そのままそのファイルを使うことができます。しかし、AIX では LF 文字のみが区切り文字として使われるので、改行 (LF) 文字の前の復帰 (CR) 文字は、ファイル受信時に削除されます。

n ファイル内のレコードは CRLF 文字で区切られていません。ファイルはそのままの状態を受信されます。

省略時値は、ASCII データが y、バイナリーデータが n です。

delimited

[MVS, 400] 受信データのレコード構造を決めるオプション。DLMOVERRIDE に y を指定している場合、CDH がレコードは別の構造を持っていることを示していても、DELIMITED パラメーターの情報を使います。DLMOVERRIDE に n を指定している場合、CDH がデータのレコード構造を示していれば、DELIMITED パラメーターを無視します。

c レコードを CRLF 文字で分割します。CDH が CRLFEOF パラメーターを含んでいる場合、パラメーターの CRLF 文字を使います。それ以外の場合、CRLF に X'0D0A'を使います。

l 各レコードの先頭 2 バイトのレコード長情報に従ってレコードを分割します。

n データを受信したまま格納します。レコード長は、データの受信に割り当てられているデータ・セットのレコード長によって決まります。これは省略時値です。

dlimoverride

DELIMITED パラメーターが CDH で指定されている構造を上書きすべきかどうかを指定するオプション。

y CDH がレコード区切り文字のタイプを示していても、DELIMITED パラメーターに従ってデータを書式化します。

n CDH がレコード区切り文字のタイプを示している場合、CDH に従ってデータを書式化します。これは省略時値です。

endstr

各受信メッセージの最後に使用されている文字列を指定するオプション。これにより、1 つのファイル内のメッセージを分けることができます。区切り文字列を s:で始めると、レコード境界を無視し、受信データのすぐ後に区切り文字を入れます。区切り文字列を r:で始めると、受信データにつづくレコードの先頭に区切り文字を入れます。省略時値は r:です。

s:と r:は、区切り文字の一部とは見なされず、受信ファイルには入りません。このパラメーターを指定していない場合、または空白のままにしておいた場合、各メッセージの最後に区切り文字列を書き込みません。1-79 文字の英数字を使ってください。

RECEIVE

- resrecl** データ受信中に作成されたレコードの長さデータ受信用に割り当てられているデータ・セットの論理レコード長の間の不一致をどう解決しなければならないかを示します。
- 注:(AUTOEDI オプションを使って)データを EDI データとして処理している場合、レコードがデータ・セットに対して長すぎる場合、レコードは必ず分割されます。データが区切り文字を含んでいない場合には、レコード長は受信データ・セットの論理レコード長によって決められ、次の規則は適用されません。
- e 受信レコードがデータ・セットに対して長すぎる場合、セッションをエラーで終了します。
このオプションは、セッションレベル・リカバリーでだけ有効です。なぜなら、ユーザーが、チェックポイントレベル・リカバリーを使ってエラーを訂正し、正しく再始動することは難しいからです。
 - s 受信レコードがデータ・セットには長すぎる場合、レコードを分割し、応答ファイルに警告メッセージを書き込みます。これは省略時値です。
- translate** 標準の ASCII から EBCDIC への変換テーブルを上書きする変換テーブルの名前を表します。1-8 文字の英数字で指定します。
この値に接尾語.xlt を追加して変換テーブルを含むファイルの名前を作成します。このパラメーターを指定しないと、TRANSMIT コマンドで指定されるテーブルを使用します。TRANSMIT コマンドでも TRANSLATE が指定されていないければ、省略時値の IE/EX 変換テーブルを使用します。
- removeof** 受信ファイルの終わりから EOF 文字を取り除くかどうかを表します。
このオプションは、単一ファイルに複数のファイルを受信する場合に有用です。
- n EOF 文字を取り除きません (省略時値)
 - y EOF 文字が受信ファイルの最後の文字の場合に、EOF 文字を取り除きます。
- allfiles** メールボックス内の RECEIVE 要求に一致する全ファイルを受信するか、あるいは RECEIVE 仕様に一致する 1 番目のファイルだけを受信するかどうかを表します。
- y RECEIVE 要求に一致する全ファイルを受信します (省略時値)
 - n RECEIVE 要求に一致する 1 番目のファイルだけを受信します。
- nonedionly** EDI データ以外のデータだけの受信を指定します。
- n RECEIVE 要求に一致するメールボックス内の全ファイルを受信します (省略時値)
 - y メールボックス内の RECEIVE 要求に一致するファイルで、CDH で EDI 形式でないことが示されているファイル、または CDH がないファイルだけを受信します。

RECEIVE

msgkey メールボックスから特定ファイルを受信するのに使用する固有なメッセージ・キーを表します。QUERY コマンドに対する AVAILABLE レコードで、この値を調べることができます。20 文字を使用します。

注 ; [MVS と 400] 16 進数を使用する。

startdate 限定受信したいファイルの開始日付を指定します。指定した日付は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された日付を含んでいなければなりません。形式は YYYYMMDD (YYMMDD でも可) です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。

注 : 2 桁で指定した場合は、過去 (現在の年) - 50、将来 (現在の年) + 49 までの範囲で 4 桁変換します。

starttime 限定受信したいファイルの開始時間を指定します。指定した時間は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された時間を含んでいなければなりません。形式は HHMMSS です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。

enddate 限定受信したいファイルの最終日付を指定します。指定した日付は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された日付を含んでいなければなりません。形式は YYYYMMDD (YYMMDD でも可) です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。

注 : 2 桁で指定した場合は、過去 (現在の年) - 50、将来 (現在の年) + 49 までの範囲で 4 桁変換します。

endtime 限定受信したいファイルの最終時間を指定します。指定した時間は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された時間を含んでいなければなりません。形式は HHMMSS です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。

timezone STARTTIME と ENDTIME で参照する時間

- l IDENTIFY の TIMEZONE で指定したローカル・タイムを使用する。省略時値です。
- g GMT (Greenwich mean time)。

R E C E I V E

wait

メールボックス内のデータに達するための待ち時間を指定します。形式は MMSS です。MM は 02 から 05 まで指定ができ SS は 0 から 59 までです。最大値は 0500 (5 分) 最小値は 0200 (2 分) です。このパラメータは basein.pro ファイルの TRANSMIT コマンドで COMMTYPE (a)(t)(c) を指定していなければならない。

- 注: 1 .TCP/IP 通信にて TCPCOMM コマンドの TIMEOUT パラメータを指定していて、WAIT パラメータの値より小さい場合は、TIMEOUT パラメータが優先される。
- 2 .RECEIVE コマンドで WAIT パラメータが指定されているとき、RECEIVE コマンドで指定に合う最初のファイルのみが受信される。後続のファイルを受信するためには WAIT パラメータを指定しない追加の RECEIVE コマンドを指定する必要があります。

RECEIVEEDI

RECEIVEEDI コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

RECEIVEEDI コマンドは、IE/EX メールボックスから EDI 形式のファイルを取り出すのに使用します。このコマンドを使うことで、EDI データのみの受信が保証されるわけではありません。EDI データ受信に関する詳細は、Programming Guide の “Receiving EDI data” を参照してください。

受信ファイルが EDI データでないことが CDH で示されていれば、CDH で示されたフォーマットでファイルを受信します。データ・タイプが CDH に示されていなかったり、CDH が存在しない場合は、データを調べて EDI データ・タイプを判断します。ファイルが EDI データとして認識できない場合は、レコードを再フォーマットしないでファイルを受信します。CDH に関する詳細は、Programming Guide の “Common data header” を参照してください。

RECEIVEEDI コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RECEIVED レコードと RETURN レコードです。

RECEIVEEDI コマンドの構文例を以下に示します。

receiveedi

alias(alias) aliasname(alias name)

or

sysid(system ID) account(account) userid(user ID)

or

account(account) userid(user ID)

or

listname(list name)

or

requeued(n|y)

fileid(file ID)

class(class)

archiveid(archive ID)

multfiles(n|y)[WIN, AIX]

origfile(n|y) [WIN, AIX]

ediopt(y|n|f)

recordsize(record size) [WIN, AIX]

translate(translate table) [WIN, AIX]

allfiles(y|n)

edionly(n|y)

msgkey(message key)

startdate(starting date)

starttime(starting time)

enddate(ending date)

endtime(ending time)

timezone(l | g)

wait (wait time) ; [WIN,AIX]

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、受信するデータの送信元ユーザーを指定します。

空白 ニックネームを使用しません (省略時値)

gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

oxxx オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

[WIN, AIX]

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

注：ニックネーム・テーブルの作成と保守には 2 つの方法があります。

1. IE/EX サービス管理責任者機能を使用する (「IE/EX サービス サービス管理責任者ご利用の手引き」を参照)
2. DEFINEALIAS コマンドを使う (Programming Guide “DEFINEALIAS command” を参照)

aliasname ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブル中のニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、受信するデータの送信元ユーザーを指定します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。

sysid 受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合にのみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。

account 受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

userid 受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーのユーザー ID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

RECEIVED I

- listname** 顧客コードとユーザーID のリスト名を表します。このフィールドを使って、受信するデータの送信元ユーザーのリストを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。
- requeded** 保管ファイルから取り出されたファイルのみを受信するかどうかを表します。
- n** メールボックスのすべてのファイルを受信します (省略時値)。
y 保管ファイルから取り出されたファイルのみを受信します。y を指定すると顧客コードおよびユーザーID、またはニックネームなどの宛先コードを指定することができません。
- fileid** 受信データを入れるファイルの名前を表します。[MVS] 受信するファイルを定義しているDD名かデータセット名を表します。
[WIN, MVS] 1-54 文字の英数字で指定します。
[AIX] 1-128 文字の英数字で指定します。
[400] 1-33 文字の英数字で指定します。(例) ライブ ライ-名 / ファイル名 (メバ -名)
- class** 受信ファイルのユーザー・クラスを表します。このユーザー・クラスによって、受信するファイルを制限することができます。1-8 文字の英数字で指定します。疑問符(?) をワイルドカード文字として使用できます。例えば、AB1 で始まるユーザー・クラスを持つ全てのファイルを受信するには、AB1?と入力します。999 で終わるユーザー・クラスを持つ全てのファイルを受信するには、?999 と入力します。1-8 文字を使用します。省略時値は、すべてのユーザー・クラスを表す空白です。ファイルを受信する時は、CLASS パラメーターの使用をお勧めします。
EDI データが省略時値のユーザー・クラスを使って SENDEDI コマンドで送信されると、IE/EX のメールボックスに入れられるデータは次のように分類されます。
- #EE EDIFACT データ
#EU UN/TDI データ
#E2 X12 データ
#EC UCS データ
省略時値のユーザー・クラスの EDI ファイルだけを受信する場合には#E?とタイプします。
- archiveid** 受信ファイルに割り当てる保管ファイル参照キーを表します。IE/EX のプロファイルで、ファイルの保管が指定されていれば、IE/EX は、この保管ファイル ID でファイルを保管します。この保管ファイル ID は、後でこのファイルのコピーをユーザーのメールボックスに戻す時に ARCHIVEMOVE で使用できます。1-8 文字の英数字で指定します。

multfiles	<p>複数のファイルを、受信する際に、別々のファイルとして受け取るか、1つの連結したファイルとして受け取るかを表します。</p> <p>n 単一ファイルに全受信ファイルを連結して受け取ります（省略時値）。</p> <p>y 2番目以降に受信するファイルに対して新しい個別のファイルを作成します。新しいファイル名は、.002 から番号付けされるファイル拡張子で生成されます。 1000 個以上のファイルを受信する場合、拡張子.ovf を持つファイルにそれ以降のファイルを付加します。</p>
origfile	<p>送信側システムで使用されている元の名前を使ってデータをファイルに受信するかどうかを表します。</p> <p>n FILEID で指定されるファイルですべてのデータを受け取ります（省略時値）。</p> <p>y 送信側システムの CDH で指定される元のファイル名がファイル・システムに対して有効であれば、ファイルを元のファイル名で受け取ります。</p>
ediopt	<p>EDIファイルの各セグメント区切り文字の後にCRLFを加えるかどうかを表します。受信メッセージがEDIデータであることがCDHに示されておらず、AUTOEDIがyに設定されていれば、このオプションを無視します。</p> <p>y ファイルがEDIデータであるとCDHに示されていれば、セグメント区切り文字の後にCRLFを付加します（省略時値）。</p> <p>n EDIファイルの各セグメント区切り文字の後にCRLFを付加しません。</p> <p>f CDH情報にかかわらず、各EDIセグメントを分割します。</p>
recordsize	<p>指定された間隔でデータにCRLF文字を挿入して、EDIデータを固定長レコードに分割するかどうかを表します。このオプションは、EDIOPTがnである場合にのみ有効です。</p> <p>000 ファイルにCRLF文字を挿入しません（省略時値）。</p> <p>nnn nnn文字ごとにCRLF文字を挿入します（nnnは1-999の数字）。</p> <p>注：このパラメーターは、CDHなしで送られるファイルに対しては何も行ないません。CDHに関する詳細は、Programming Guideの“Comon data header”を参照してください。</p>
translate	<p>標準のASCIIからEBCDICへの変換テーブルを上書きする変換テーブルの名前を表します。1-8文字の英数字で指定します。</p> <p>この値に接尾語.xltを付加して変換テーブルを含むファイルの名前を作成します。このパラメーターを指定しないと、TRANSMITコマンドで指定されるテーブルを使用します。TRANSMITコマンドでもTRANSLATEが指定されていないければ、省略時値のIE/EX変換テーブルを使用します。</p>

RECEIVEEDI

- allfiles** メールボックス内の RECEIVEEDI 要求に一致する全ファイルを受信するか、あるいは RECEIVEEDI 仕様に一致する 1 番目のファイルだけを受信するかどうかを表します。
- y RECEIVEEDI 要求に一致する全ファイルを受信します (省略時値)。
n RECEIVEEDI 要求に一致する 1 番目のファイルだけを受信します。
- edionly** EDI データのみの受信を指定します。
- n RECEIVEEDI 要求を満たすメールボックス内の全ファイルを受信します (省略時値)。受信ファイルが EDI データを含まないことが CDH で示されていれば、CDH で示されたフォーマットでファイルを受信します。ファイルが CDH を持っていなかったり、EDI データとして認識できない場合は、レコードをフォーマットしないでファイルを受信します。
y CDH で EDI 形式が示されているファイルだけをメールボックスから受信します。
- msgkey** メールボックスから特定ファイルを受信するのに使用する固有なメッセージ・キーを表します。QUERY コマンドに対する AVAILABLE レコードで、この値を調べることができます。20 文字を使用します。
- startdate** 限定受信したいファイルの開始日付を指定します。指定した日付は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された日付を含んでいなければなりません。形式は YYYYMMDD (YYMMDD でも可) です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。
- 注：2 桁で指定した場合は、過去 (現在の年) - 5 0、将来 (現在の年) + 4 9 までの範囲で 4 桁変換します。
- starttime** 限定受信したいファイルの開始時間を指定します。指定した時間は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された時間を含んでいなければなりません。形式は HHMMSS です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。
- enddate** 限定受信したいファイルの最終日付を指定します。指定した日付は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された日付を含んでいなければなりません。形式は YYYYMMDD (YYMMDD でも可) です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。
- 注：2 桁で指定した場合は、過去 (現在の年) - 5 0、将来 (現在の年) + 4 9 までの範囲で 4 桁変換します。

R E C E I V E E D I

endtime	限定受信したいファイルの最終時間を指定します。指定した時間は、受信したいファイルが I E / E X メールボックスに蓄積された時間を含んでいなければなりません。形式は HHMMSS です。指定しない場合は、I E の省略時値が取られます。
timezone	STARTTIME と ENDTIME で参照する時間 l IDENTIFY の TIMEZONE で指定したローカル・タイムを使用する。省略時値です。 g GMT (Greenwich mean time)。
wait	メールボックス内のデータに達するための待ち時間を指定します。形式は MMSS です。MM は 02 から 05 まで指定ができ SS は 0 から 59 までです。最大値は 0500 (5 分)、最小値は 0200 (2 分) です。このパラメータはプロファイル・コマンドの T R A N C M I T コマンドで COMMTYPE (a) (t) (c) を指定していなければならない。

- 注: 1 .TCP/IP 通信にて TCPCOMM コマンドの TIMEOUT パラメータを指定していて、WAIT パラメータの値より小さい場合は、TIMEOUT パラメータが優先される。
- 2 .RECEIVE コマンドで WAIT パラメータが指定されているとき、RECEIVE コマンドで指定に合う最初のファイルのみが受信される。後続のファイルを受信するためには WAIT パラメータを指定しない追加の RECEIVE コマンドを指定する必要があります。

RECEIVESTREAM

RECEIVESTREAMコマンド (MVS, 400)

RECEIVESTREAM コマンドを使って、データを直接メッセージ応答ファイルに受け取ることができます。RECEIVESTREAM コマンドを使ってデータを受け取るとき、データは、応答ファイルにおいて RECEIVED レコードのすぐ後にきます。このコマンドは、セッションレベル・リカバリーでだけ有効です。

RECEIVESTREAM コマンドの構文は、以下のとおりです。

receivestream

alias(alias) aliasname(alias name)

or

sysid(system ID) account(account) userid(user ID)

or

account(account) userid(user ID)

or

listname(list name)

or

requeued(n | y)

endstr(endstr)

class(class)

archiveid(archive ID)

allfiles(y | n)

msgkey(message key);

startdate(starting date)

starttime(starting time)

enddate(ending date)

endtime(ending time)

timezone(l | g);

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。

空白 ニックネームを使用しません (省略時値)

gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

oxxx オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

aliasname ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブル中のニックネームを表します。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。

RECEIVESTREAM

sysid	受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合にのみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。
account	受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターを指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。
userid	受信するデータの送信元の IE/EX ユーザーのユーザー ID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターを指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。
listname	顧客コードとユーザー ID のリスト名を表します。このフィールドを使って、受信するデータの送信元のユーザーのリストを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。
requeued	保管ファイルから取り出されたファイルのみを受信するかどうかを表します。
n	このコマンドの受信仕様を使って、全ファイルをメールボックスから受信します (省略時値)。
y	保管ファイルから取り出されたファイルのみを受信します。y を指定すると SYSID、ACCOUNT、USERID、ALIAS、ALIASNAME、LISTNAME パラメーターを同時に指定することができません。
endstr	各受信メッセージの最後に使用する文字列を指定するオプション。これにより、1 つのファイル内のメッセージを分けることができます。区切り文字列を s: で始めると、レコード境界を無視し、受信データのすぐ後に区切り文字を入れます。区切り文字列を r: で始めると、受信データにつづくレコードの先頭に区切り文字を入れます。省略時は r: です。s: と r: は、区切り文字の一部とは見なされず、受信ファイルには入りません。このパラメーターを指定していない場合、または空白のままにしておいた場合は、各メッセージの最後に区切り文字列を書き込みません。1-79 文字の英数字を使ってください。
class	受信ファイルのユーザー・クラスを表します。このユーザー・クラスによって、ファイルに受信するファイルを制限することができます。1-8 文字の英数字で指定します。疑問符(?) をワイルドカード文字として使用できます。例えば、AB1 で始まるユーザー・クラスを持つ全てのファイルを受信するには、AB1? と入力します。999 で終わるユーザー・クラスを持つ全てのファイルを受信するには、?999 と入力します。省略時値はすべてのユーザー・クラスを示す空白になります。
archiveid	受信ファイルに割り当てる保管ファイル参照キーを表します。IE/EX のプロファイルで、ファイルの保管が指定されていれば、IE/EX はこの保管ファイル参照キーでファイルを保管します。この保管ファイル参照キーは、後でこのファイルのコピーをユーザーのメールボックスに戻す時に ARCHIVEMOVE で使用できます。1-8 文字の英数字で指定します。

RECEIVESTREAM

allfiles	RECEIVE 仕様に該当するすべてのファイルを受信するのか、または RECEIVE 仕様に該当する IE/EX メールボックスの最初のファイルだけを受信するのかを指定するオプション。 y RECEIVE 仕様に該当するすべてのファイルを受け取ります。 これは省略時値です。 n RECEIVE 仕様に該当する最初のファイルだけを受け取ります。
msgkey	メールボックスから特定のファイルを受け取るのに使用する固有なメッセージ・キー。その値は、QUERY コマンドに回答して AVAILABLE レコードから取得されます。 20 文字の 16 進数を使ってください。
startdate	限定受信したいファイルの開始日付を指定します。指定した日付は、受信したいファイルが IE / EX メールボックスに蓄積された日付を含んでいなければなりません。形式は YYYYMMDD (YYMMDD でも可) です。 指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。 注：2 桁で指定した場合は、過去（現在の年） - 50、将来（現在の年） + 49 までの範囲で 4 桁変換します。
starttime	限定受信したいファイルの開始時間を指定します。指定した時間は、受信したいファイルが IE / EX メールボックスに蓄積された時間を含んでいなければなりません。形式は HHMMSS です。指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。
enddate	限定受信したいファイルの最終日付を指定します。指定した日付は、受信したいファイルが IE / EX メールボックスに蓄積された日付を含んでいなければなりません。形式は YYYYMMDD (YYMMDD でも可) です。 指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。 注：2 桁で指定した場合は、過去（現在の年） - 50、将来（現在の年） + 49 までの範囲で 4 桁変換します。
endtime	限定受信したいファイルの最終時間を指定します。指定した時間は、受信したいファイルが IE / EX メールボックスに蓄積された時間を含んでいなければなりません。形式は HHMMSS です。指定しない場合は、IE の省略時値が取られます。
timezone	STARTTIME と ENDTIME で参照する時間 l IDENTIFY の TIMEZONE で指定したローカル・タイムを使用する。省略時値です。 g GMT (Greenwich mean time)。

SENDコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

SEND コマンドは、IE/EX にファイルを送信するのに使用します。SEND コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、SENT レコードと RETURN レコードです。

SEND コマンドの構文例を以下に示します。

```

send
alias(alias) aliasname(alias name)
or
sysid(system ID) account(account) userid(user ID)
or
account(account) userid(user ID)
or
listname(list name)

fileid(file ID)
format(n|y)
class(class)
mode(blank|t)
priority(blank|i|p)
charge(1|2|3|4|5|6)
ack(blank|a|b|c|d|e|f|r)
msgname(msg name)
msgseqno(message sequence number)
datatype(a|b) [WIN, AIX, MVS]
datatype(e|b)[MVS, 400]
truncate(n|y) [MVS, 400]
crlfeof(crlfeof) [MVS, 400]
delimit(c|l|u|n) [MVS, 400]
delimited(n|y) [WIN, AIX]
verify(n|y|f)
description(description)
recfm(f|v) [WIN, AIX]
lrecl(record length) [WIN, AIX]
retain(time)
translate(translate table) [WIN, AIX]
compress(n|y|t) [WIN, AIX, 400]
compress(n|y|t|v) [MVS]
destfile(destination file name)
destloc(destination file location)
selectrcv(f|n);

```

SEND

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、データの宛先のユーザーを指定します。

空白 ニックネームを使用しません（省略時値）。
gxxx グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
oxxx オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
pxxx プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

注：ニックネーム・テーブルの作成、保守には 2 つの方法があります。

1. IE/EX サービス管理責任者機能を使用する（「IE/EX サービス サービス管理責任者ご利用の手引き」を参照）。
2. DEFINEALIAS コマンドを使う

aliasname ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブル中のニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、データの宛先のユーザーを指定します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。

sysid ファイルの宛先の IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合にのみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。

account ファイルの宛先の IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

userid ファイルの宛先の IE/EX ユーザーのユーザー ID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。

listname 顧客コードとユーザー ID のリスト名を表します。このフィールドを使って、データの宛先のユーザーのリストを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。

fileid	<p>ユーザーが送信するファイル名を表します。[MVS] 送信するファイルを定義しているDD名かデータセット名を表します。 [WIN, MVS] 1-54文字の英数字で指定します。 [AIX] 1-128文字の英数字で指定します。 [400] 1-33文字の英数字で指定します。(例) ライブラリ名/ファイル名(メンバー名)</p>
format	<p>[WIN, AIX] データをファイルとしてか、または電子メール形式としてかのいずれで送信するかを表します。</p> <p>n 電子メール形式にしないでデータを送信します(省略時値)。 y 電子メール形式でデータを送信します。これはレコード長が79バイト固定長であることを意味します。79バイトに満たない分は、空白でパディングされます。このオプションとともに DATATYPE(b)、DELIMITED(y)を指定することは出来ません。</p> <p>[MVS, 400] データをファイルとしてか、またはフリー・フォーマット形式としてかのいずれで送信するかを表します。</p> <p>n フリー・フォーマット形式にしないでデータを送信します(省略時値)。 y フリー・フォーマット形式でデータを送信します。これはレコード長が79バイト固定長であることを意味します。79バイトに満たない分は、空白でパディングされます。このオプションとともに DATATYPE(b)、DELIMIT(c)、DELIMIT(i)を指定することは出来ません。</p>
class	<p>送信ファイルのユーザー・クラスを表します。受信者は、このユーザー・クラスのファイルだけを受信することができます。1-8文字の英数字で指定します。FORMAT(Y)を指定すると、省略時値のffmsg001が使用されます。そうでない場合は空白です。</p>
mode	<p>テスト・ファイルか通常のファイルかを表します。</p> <p>空白 通常のファイル(省略時値) t テスト・モード・ファイル</p>
priority	<p>ファイルの配布サービスのクラスを表します。</p> <p>空白 普通クラス(省略時値) I 連続受信機能を持つユーザーで、現在 IE/EX セッションを行なっているユーザーに緊急クラスで配布します。このクラスのファイルは、他の低いクラスのファイルよりも前に受信されます(BASEシリーズは、連続受信機能をサポートしていません)。 p 至急クラス</p>

SEND

charge

送信者が望む受信料金の支払方法を IE/EX に示します。

- 1 受信者がすべての支払いを行います。
- 2 受信者の同意に基づいて、受信者がすべての支払いを行います。
同意がなければ、送信者と受信者が支払を分担します。
- 3 受信者の同意に基づいて、受信者がすべての支払いを行います。そうでない場合は、受信者の同意に基づいて、送信者と受信者が支払を分担します。
同意がなければ、送信者がすべての支払いを行います。
これは省略時値です。
- 4 受信者の同意に基づいて、送信者と受信者が支払を分担します。同意がなければ、送信者がすべての支払いを行います。
- 5 送信者と受信者が支払を分担します。
- 6 送信者がすべての支払いを行います。

注： < IE / EX > では、パートナー登録で行っています。詳細は、 IE / EX サービス概説書の「料金負担」を参照してください。

ack

受信する確認メッセージの種類を表します。IE/EX は、ユーザーのメールボックスに以下に示す確認メッセージを入れます。

- 空白 確認メッセージを作成しません。
- a 廃棄確認メッセージだけを作成します。
- b 到着確認メッセージとデリバリー確認メッセージの両方を作成します。
- c 到着確認メッセージと廃棄確認メッセージの両方を作成します。
- d デリバリー確認メッセージだけを作成します。
- e 廃棄確認メッセージかデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
- f 到着確認メッセージと、廃棄確認メッセージまたはデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
- r 到着確認メッセージだけを作成します。

詳細は、Programming Guide の“ Using acknowledgments ”を参照してください。

注： < IE / EX > の @ S T A T A S の作成は、ユーザープロファイルでの設定が前提となります。

msgname

識別子としてファイルに割り当てる名前を表します。1-8 文字の英数字で指定します。

msgseqno

ファイルに割り当てる制御番号を表します。1-5 文字の英数字で指定します。

datatype

[WIN, AIX] データがテキストかバイナリーのいずれであるかを表します。テキスト・データとバイナリー・データについての詳細は、Programming Guide の“ Sending and receiving files ”を参照してください。

- a テキスト・データ (省略時値)
- b バイナリー・データ

datatype	<p>[MVS, 400] データが EBCDIC かバイナリーかを示すのに使用されるオプション。ASCII システムは、IE/EX からデータを受信すると、EBCDIC データを ASCII に変換します。EBCDIC データとバイナリー・データの詳細については、Programming Guide の “Communicating with other operating systems” を参照してください。</p> <p>e EBCDIC・データ (省略時値) b バイナリー・データ</p>
truncate	<p>送信する前に別のレコードから各レコードの後続の空白を除去させたいかどうかを示すオプション</p> <p>y 後続空白を切り捨てます。 n 後続空白を切り捨てません。(省略時値)</p>
crleof	<p>DELIMIT(c)オプションと共に使用する復帰改行、ファイルの終わり文字を再定義するのに使用するオプション。標準 IE/EX 変換テーブル以外の変換テーブルを使って受信する PC に送信する際に、このパラメータが必要となります。6 文字の 16 進数を使ってください。省略時値は 0D0A1A です。</p>
delimit	<p>ファイルのレコード構造の保存方法を指定するのに使用するオプション。適切な区切り文字タイプをデータに挿入し、受信者が使用する為に、適切な情報を CDH に入れます。</p> <p>c CRLF 文字によって区切られたレコードを送信する。X'0D0A'を各レコードの最後に挿入し、レコード構成を示します。ファイルを X'1A'で終了します。CRLFEOF 文字を CRLFEOF パラメータに置き換える事もできます。</p> <p>l レコードを 2 バイト長の区切り文字で区切る。レコード構成を表すのに、各レコードの先頭に 2 バイト長を挿入します。</p> <p>u 既に C R L F 文字によって区切られたレコードを送信する時、C R L F 情報を C D H に入れます。</p> <p>n レコード区切りを持たないレコードを送信します。(省略時値)</p>
delimited	<p>データを復帰改行 (CRLF) 文字で区切るかどうかを表します。</p> <p>n レコードは CRLF 文字によって区切られません。 y レコードは CRLF 文字によって区切られます。CRLF 文字がすでにファイルがあると仮定して CRLF 文字を挿入しません。 省略時値は、テキストが y、バイナリーが n です。</p>

SEND

verify

ファイルを送信する前に受信者が存在を確認するかどうかを表します。

- n 受信者の存在を確認しません (省略時値)。
- y データを送信する前に受信者の存在を確認します。
- f 受信者の存在を確認します。IE/EX が受信者の存在を確認できない場合でも (例えば、受信者が他の IE/EX システムに存在する場合) データ送信を行いません。

無効な宛先に対する確認要求を行った場合には、確認に対する IE/EX メッセージ課金を受けます。有効な宛先に対する確認や、確認不能な宛先への確認要求は、メッセージで課金は受けません。課金についての詳細は、Programming Guide の [WIN, AIX] “ Understanding validations, payment levels, and authorization ”、 [MVS, 400] “ Validating addresses, payment levels, and authorizations when sending data ” を参照してください。

description

ファイルに関するフリー・フォーマットの記述を提供します。1-79 文字の英数字で指定します。CDH をサポートする受信側インターフェースにのみ記述が提供されません。CDH に関する詳細は、Programming Guide の “ Comon data header ” を参照してください。

recfm

ファイルのレコード形式を表します。このパラメーターは、主にドキュメンテーション処理の目的に使用します。CDH にこの情報を入れます。ファイルの受信時には、全ての Expedite プログラムがこのパラメーターを無視します。

- f ファイルは、固定レコード形式になります。
- v ファイルは、可変レコード形式になります。

lrecl

ファイルのレコード長を表します。このパラメーターは、主にドキュメンテーション処理の目的に使用します。レコード長フィールドは、システム間でやり取りされるレコード長を指定します。CDH にこの情報を入れます。ファイルの受信時には、全ての Expedite プログラムがこのパラメーターを無視します。有効な値は 1-65535 です。省略時値は空白です。

retain

メールボックスからの受信が行なわれない場合に、IE/EX がメールボックスにファイルを保持する日数を表します。保管期間の最大日数と省略時値は、それぞれの IE/EX システムによって異なります。一般に保管期間の省略時値は 30 日です。これらの値に関する詳細は、弊社販売担当者にお問い合わせください。有効な値は 0-180 です。ユーザーが 0 またはブランクを指定すると、省略時値になります。

注：現在、< IE / EX > < 国際 IE > とともに最高期間は、30 日までです。

translate

標準の ASCII から EBCDIC への変換テーブルを上書きする変換テーブルの名前を表します。1-8 文字の英数字で指定します。この値に接尾語 .xlt を付加して変換テーブルを含むファイルの名前を作成します。このパラメーターを指定しないと、TRANSMIT コマンドで指定されるテーブルを使用します。TRANSMIT コマンドでも TRANSLATE が指定されていないければ、省略時値の IE/EX 変換テーブルを使用します。

compress ファイル圧縮を使用する際に指定します。

n 圧縮をしない。(省略時値)
y 圧縮する。
t 送信者、受信者のペアの間で、CPLOOKUP テーブルで示された COMPRESS パラメータ設定を使用する。両者間で設定が合っていない場合は OUTMSG ファイルに警告が出力されます。また、その場合、送信者の設定で送信されます。
v [MVS] 送信者、受信者のペアの間で、CPLOOKUP テーブルで示された COMPRESS パラメータ設定を使用する。両者間で設定が合っていない場合は OUTMSG ファイルに警告はでません。また、その場合、送信者の設定で送信されます。

圧縮を行うためには圧縮ソフトが必要です。
 このコマンドのパラメータのいくつかは使用できないことがあります。Programming Guide の “Using data compression” を参照してください。

注：現在日本ではCOMPRESSを取り扱っていません。

destfile ファイル名を指定します。CDH にオリジナル・ファイル名として入ります。受信者が、Expedite Base のワークステーションの場合は、RECEIVE あるいは RECEIVED コマンドの ORGFILE(y)を指定することにより、このファイル名で保管します。このファイル名が受信者のシステムに合わない場合は、RECEIVE あるいは RECEIVED コマンドの FILEID パラメーターの値を使用します。省略時は、SEND、SENDEDI あるいは PUTMEMBER コマンドの FILEID をオリジナル・ファイル名として使用します。1-54 文字です。

destloc CDH のファイル・ロケーションを指定します。BASE シリーズで受信した場合、RECEIVED あるいは AVAILABLE レコードで値がわかります。また、受信者の IE/EX メールボックス照会でも値がわかります。省略時は、送信者のシステムのファイル・ロケーションを使用します。1-65 文字です。

selectrcv 受信条件を特定しなければ受信出来ないようにするかを指定します。

f 受信条件を特定しなければ受信できません。
n 特定せず、全てを受信することが出来ます。(省略時)

f を指定した場合、送信されたファイルは特定しなければ受信できません。
 このファイルを受信したい場合、次のいずれかを指定しなければなりません。

- ・ Sender ID(accountID and user ID)
- ・ Message class
- ・ Message key

SENDEDI

SENDEDI コマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

SENDEDI コマンドは、IE/EX に EDI 形式のファイルを送信するために使用します。ファイルは、X 12、UCS、EDIFACT、UN/TDI データのいずれかが、あるいはそれらが組み合わされたものです。EDI データの送信に関する詳細は、Programming Guide の “Sending and receiving EDI data” を参照してください。

SENDEDI コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、SENT と RETURN レコードです。

SENDEDI コマンドの構文例を以下に示します。

sendedi

fileid(file ID)

mode(**blank** | **t**)

priority(**blank** | **i** | **p**)

charge(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6)

ack(**blank** | **a** | **b** | **c** | **d** | **e** | **f** | **r**)

msgname(message name)

msgseqno(message sequence number)

class(class)

verify(**n** | **y** | **f** | **c** | **g**)

description(description)

refm(**f** | **v**) [WIN, AIX]

lrecl(record length) [WIN, AIX]

retain(time)

translate(translate table) [WIN, AIX]

compress(**n** | **y** | **t**) [WIN, AIX, 400]

compress(**n** | **y** | **t** | **v**) [MVS]

destfile(destination file name)

destloc(destination file location)

selectrcv(**f** | **n**);

fileid ユーザーが送信するファイルの名前を表します。[MVS] 受信するファイルを定義している DD 名かデータセット名を表します。
[WIN, MVS] 1-54 文字の英数字で指定します。
[AIX] 1-128 文字の英数字で指定します。
[400] 1-33 文字の英数字で指定します。(例) ライブラリ名 / ファイル名 (メンバー名)

mode テスト・ファイルか通常のファイルかを表します。

空白 通常のファイル (省略時値)
t テスト・モード・ファイル

priority	ファイルの配布サービスのクラスを表します。
	空白 普通クラス（省略時値）
	i 連続受信機能を持つユーザーで、現在 IE/EX セッションを行なっているユーザーに緊急クラスで配布します。このクラスのファイルは、他の低いクラスのファイルよりも前に受信されます（BASEシリーズは、連続受信機能をサポートしていません）。
	p 至急クラス
charge	送信者が望む受信料金の支払方法を IE/EX に示します。
	1 受信者がすべての支払いを行います。
	2 受信者の同意に基づいて、受信者がすべての支払いを行います。同意がなければ、送信者と受信者が支払を分担します。
	3 受信者の同意に基づいて、受信者がすべての支払いを行います。そうでない場合は、受信者の同意に基づいて、送信者と受信者が支払を分担します。同意がなければ、送信者がすべての支払いを行いません。これは省略時値です。
	4 受信者の同意に基づいて、送信者と受信者が支払を分担します。同意がなければ、送信者がすべての支払いを行います。
	5 送信者と受信者が支払を分担します。
	6 送信者がすべての支払いを行います。
	注：< IE / EX > では、パートナー登録で行っています。詳細は、IE / EX サービス概説書の「料金負担」を参照してください。
ack	受信する確認メッセージの種類を表します。IE/EX は、ユーザーのメールボックスに以下に示す確認メッセージを入れます。
	空白 確認メッセージを作成しません。
	a 廃棄確認メッセージだけを作成します。
	b 到着確認メッセージとデリバリー確認メッセージの両方を作成します。
	c 到着確認メッセージと廃棄確認メッセージの両方を作成します。
	d デリバリー確認メッセージだけを作成します。
	e 廃棄確認メッセージかデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
	f 到着確認メッセージと、廃棄確認メッセージまたはデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
	r 到着確認メッセージだけを作成します。
	詳細は、Programming Guide の “ Using acknowledgments ” を参照してください。
	注：< IE / EX > の @ S T A T A S の作成は、ユーザープロファイルでの設定が前提となります。

SENDEDI

msgname 識別子としてファイルに割り当てる名前を表します。1-8文字の英数字で指定します。MSGNAMEの省略時値についての詳細は、Programming Guideの[WIN, AIX]“Providing a message name(MSGNAME)”、[MVS, 400]“Message name(MSGNAME) assignment”を参照してください。

msgseqno ファイルに割り当てる制御番号を表します。1-5文字の英数字で指定します。MSGSEQNOの省略時値の詳細については、Programming Guideの[WIN, AIX]“Providing a message sequence number(MSGSEQNO)”、[MVS, 400]“Message sequence number(MSGSEQNO) assignment”を参照してください。

class 送信ファイルのユーザー・クラスを表します。受信者は、このユーザー・クラスをもつファイルだけを受信できます。1-8文字の英数字で指定します。ユーザーがCLASSパラメーターか、EDIエンベロープでユーザー・クラスを指定しないと、ユーザー・クラスの省略時値は次のようになります。

EDI データ・タイプ	省略時ユーザー・クラス
X12 データ	#E2
UCS データ	#EC
UN/TDI データ	#EU
EDIFACT データ	#EE

CLASSについての詳細は、Programming Guideの[WIN, AIX]“Providing a user class(CLASS)”、[MVS, 400]“Message class(CLASS) assignment”を参照してください。

verify	<p>ファイルを送信する前に受信者の存在を確認するかどうかを表します。</p> <p>n 受信者の存在を確認しません (省略時値)</p> <p>y データを送信する前に受信者の存在を確認します。</p> <p>f 受信者の存在を確認します。IE/EX が受信者の存在を確認できない場合でも (例えば、受信者が他の IE システムに存在する場合) データ送信を行いません。</p> <p>c ファイルを送信する前に受信者の確認をします。受信者存在確認でエラーになっても、存在確認ができない場合でもファイルを送信しません。単一ファイルに複数 EDI エンベロップがある場合、受信者確認でエラーを検知した以降のエンベロップの処理を続けます。送られなかったエンベロップには NOTSENT の応答レコードが出力されます。</p> <p>g ファイルを送信する前に受信者の確認をします。受信者の存在確認ができない場合は (例えば、受信者が他の IE システムに存在する場合) ファイルを送信します。送信者と同じ IE システム内の受信者存在確認でエラーになった場合は、エンベロップは送られません。単一ファイルに複数 EDI エンベロップがある場合、受信者確認でエラーを検知した以降のエンベロップの処理を続けます。送られなかったエンベロップには NOTSENT の応答レコードが出力されます。</p>
	<p>無効な宛先に対する確認要求を行なった場合には、確認に対する IE/EX メッセージ課金を受けます。有効な宛先に対する確認や、確認不能な宛先への確認要求は、メッセージ課金は受けられません。課金についての詳細は、Programming Guide の [WIN, AIX] “ Understanding validations, payment levels, and authorization ”, [MVS, 400] “ Validating addresses, payment levels, and authorizations when sending data ” を参照してください。</p>
description	<p>ファイルに関するフリー・フォーマットの記述を提供します。1-79 文字の英数字で指定します。CDH をサポートする受信側インターフェースにのみ記述が提供されます。CDH に関する詳細は、Programming Guide の “ Comon data header ” を参照してください。1-79 文字の英数字で指定します。</p>
recfm	<p>ファイルのレコード形式を表します。このパラメーターは、主にドキュメンテーション処理の目的に使用します。CDH にこの情報を入れます。ファイルの受信時には、全ての Expedite プログラムがこのパラメーターを無視します。</p> <p>f ファイルは、固定レコード形式になります。</p> <p>v ファイルは、可変レコード形式になります。</p>
lrecl	<p>ファイルのレコード長を表します。</p> <p>このパラメーターは、主にドキュメンテーション処理の目的に使用します。レコード長フィールドは、システム間でやり取りされるレコード長を指定します。CDH にこの情報を入れます。ファイルの受信時には、全ての Expedite プログラムがこのパラメーターを無視します。有効な値は 1-65535 です。省略時値は空白です。</p>

SENDEDI

retain

メールボックスからの受信が行なわれない場合に、IE/EX がメールボックスにファイルを保持する日数を表します。保管期間の最大日数と省略時値は、それぞれの IE/EX システムによって異なります。一般に保管期間の省略時値は 30 日です。これらの値に関する詳細は、弊社販売担当者にお問い合わせください。有効な値は 0-180 です。ユーザーが 0 またはブランクを指定すると、省略時値になります。

注：現在、<IE/EX> <国際IE> ともに最高期間は、30 日までです。

translate

標準の ASCII から EBCDIC への変換テーブルを上書きする変換テーブルの名前を表します。1-8 文字の英数字で指定します。この値に接尾語.xlt を付加して変換テーブルを含むファイルの名前を作成します。このパラメーターを指定しないと、TRANSMIT コマンドで指定されるテーブルを使用します。TRANSMIT コマンドでも TRANSLATE が指定されていない場合は、省略時値の IE/EX 変換テーブルを使用します。

comperss

ファイル圧縮を使用する際に指定します。

- n 圧縮をしない。(省略時値)
- y 圧縮する。
- t 送信者、受信者のペアの間で、CPLOOKUP テーブルで示された COMPRESS パラメータ設定を使用する。両者間で設定が合っていない場合は OUTMSG ファイルに警告が出力されます。また、その場合、送信者の設定で送信されます。
- v [MVS] 送信者、受信者のペアの間で、CPLOOKUP テーブルで示された COMPRESS パラメータ設定を使用する。両者間で設定が合っていない場合は OUTMSG ファイルに警告はできません。また、その場合、送信者の設定で送信されます。

圧縮を行うためには圧縮ソフトが必要です。
このコマンドのパラメータのいくつかは使用できないことがあります。詳細は、Programming Guide の “Using data compression” を参照してください。

注：現在日本では COMPRESS を取り扱っていません。

destfile

ファイル名を指定します。CDH にオリジナル・ファイル名として入ります。受信者が、Expedite Base のワークステーションの場合は、RECEIVE あるいは RECEIVEDI コマンドの ORGFILE(Y)を指定することにより、このファイル名で保管します。このファイル名が受信者のシステムに合わない場合は、RECEIVE あるいは RECEIVEDI コマンドの FILEID パラメーターの値を使用します。省略時は、SEND、SENDEDI あるいは PUTMEMBER コマンドの FILEID をオリジナル・ファイル名として使用します。1-54 文字です。

destloc

CDH のファイル・ロケーションを指定します。Expedite Base で受信した場合、RECEIVED あるいは AVAILABLE レコードで値がわかります。また、受信者の IE/EX メールボックス照会でも値がわかります。省略時は、送信者のシステムのファイル・ロケーションを使用します。1-65 文字です。

selectrcv

受信条件を特定しなければ受信出来ないようにするかを指定します。

- f 受信条件を特定しなければ受信できません。
- n 特定せず、全てを受信することが出来ます。(省略時)

f を指定した場合、送信されたファイルは特定しなければ受信できません。
このファイルを受信したい場合、次のいずれかを指定しなければなりません。

- **Sender ID(accountID and user ID)**
- **Message class**
- **Message key**

SENDSTREAM

SENDSTREAMコマンド (MVS, 400)

SENDSTREAM コマンドを使ってメッセージコマンドファイル (INMSG) から IE/EX サービスにデータを送信します。データはコマンドファイルの SENDSTREAM コマンドのすぐ後ろに置いてください。このコマンドはセッションレベル・リカバリーのみ有効です。

SENDSTREAM コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
sendstream  
alias(alias) aliasname(alias name)  
or  
sysid(system ID) account(account) userid(user ID)  
or  
account(account) userid(user ID)  
or  
listname(list name)  
  
endstr(endstr)  
datatype(e | b)  
mode(blank | t)  
priority(blank | i | p)  
charge(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6)  
ack(blank | a | b | c | d | e | f | r)  
msgname(message name)  
msgseqno(message sequence number)  
class(class)  
verify(n | y | f)  
description(description)  
retain(time)  
compress(n | y | t | v)  
selectrcv(f | n);
```

alias ニックネーム・テーブルのテーブル・タイプとテーブル名を表します。ALIASNAME パラメーターとともにこのフィールドを使って、データを送信する先のユーザーを指定します。

空白	ニックネームを使用しません (省略時値)。
gxxx	グローバル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
oxxx	オーガニゼーショナル・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。
pxxx	プライベート・ニックネーム・テーブル。xxx は 1-3-文字のテーブル名。

ALIAS パラメーターを指定する場合は、ALIASNAME パラメーターを指定しなければなりません。ALIAS パラメーターは、1-4 文字の英数字で指定します。

SENDSTREAM

aliasname	ALIAS パラメーターで指定したニックネーム・テーブル中のニックネームを表します。ALIAS パラメーターとともにこのフィールドを使って、データを送信する先のユーザーを指定します。ALIASNAME パラメーターを指定する場合は、ALIAS パラメーターも指定しなければなりません。ALIASNAME パラメーターは、1-16 文字の英数字で指定します。
sysid	ファイルを送信する先の IE/EX ユーザーのシステム ID を表します。他の IE システムのユーザーに対して ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定する場合にのみ、システム ID が必要です。SYSID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターと USERID パラメーターを指定しなければなりません。SYSID パラメーターは、1-3 文字の英数字で指定します。
account	ファイルを送信する先の IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターを指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。
userid	ファイルを送信する先の IE/EX ユーザーのユーザー ID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターを指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。
listname	顧客コードとユーザー ID のリスト名を表します。このフィールドを使って、データを送信する先のユーザーのリストを指定します。1-8 文字の英数字で指定します。
endstr	コマンド・ストリームに含まれるデータの最後をマークするのに使用される文字列。エンド文字列を複数のレコードに渡って分割することもできます。1-79 文字の英数字を使ってください。このパラメーターは必須です。
datatype	<p>データが EBCDIC かバイナリーかを示すのに使用されるオプション。ASCII システムは、IE/EX からデータを受信すると、EBCDIC データを ASCII に変換します。EBCDIC データとバイナリー・データの詳細については、Programming Guide “Communicating with other operating” を参照してください。</p> <p>e EBCDIC データ。これは省略時値です。 b バイナリー・データ。</p>
mode	<p>テスト・ファイルか通常のファイルかを表します。</p> <p>空白 通常のファイル（省略時値） t テスト・モード・ファイル</p>

SENDSTREAM

priority ファイルの配布サービスのクラスを表します。

- 空白 普通クラス (省略時値)
- i** 連続受信機能を持つユーザーで、現在 IE/EX セッションを行なっているユーザーに緊急クラスで配布します。このクラスのファイルは、他の低いクラスのファイルよりも前に受信されます (BASEシリーズは、連続受信機能をサポートしていません)。
- p** 至急クラス

charge 送信者が望む受信料金の支払方法を IE/EX に示します。

- 1** 受信者がすべての支払いを行います。
- 2** 受信者の同意に基づいて、受信者がすべての支払いを行います。同意がなければ、送信者と受信者が支払を分割します。
- 3** 受信者の同意に基づいて、受信者がすべての支払いを行います。そうでない場合は、受信者の同意に基づいて、送信者と受信者が支払を分割します。同意がなければ、送信者がすべての支払いを行います。これは省略時値です。
- 4** 受信者の同意に基づいて、送信者と受信者が支払を分割します。同意がなければ、送信者がすべての支払いを行います。
- 5** 送信者と受信者が支払を分割します。
- 6** 送信者がすべての支払いを行います。

注: < IE / EX > では、パートナー登録で行っています。詳細は、IE / EX サービス概説書の「料金負担」を参照してください。

ack 受信する確認メッセージの種類を表します。IE/EX は、ユーザーのメールボックスに以下に示す確認メッセージを入れます。

- 空白 確認メッセージを作成しません。
- a** 廃棄確認メッセージだけを作成します。
- b** 到着確認メッセージとデリバリー確認メッセージの両方を作成します。
- c** 到着確認メッセージと廃棄確認メッセージの両方を作成します。
- d** デリバリー確認メッセージだけを作成します。
- e** 廃棄確認メッセージかデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
- f** 到着確認メッセージと、廃棄確認メッセージまたはデリバリー確認メッセージのいずれかを作成します。
- r** 到着確認メッセージだけを作成します。

注: < IE / EX > の @ S T A T A S の作成は、ユーザープロファイルでの設定が前提となります。

msgname 識別子としてファイルに割り当てる名前を表します。1-8 文字の英数字で指定します。

msgseqno ファイルに割り当てる制御番号を表します。1-5 文字の英数字で指定します。

SENDSTREAM

class 送信ファイルのユーザー・クラスを表します。受信者は、このユーザー・クラスのファイルだけを受信することができます。1-8 文字の英数字で指定します。

verify ファイルを送信する前に、受信者がいることを確認するオプション。検証の詳細については、Programming Guide の “ Validating addresses, payment levels, and authorizations when sending data ” を参照してください。

y データを送信する前に、受信者の存在を確認します。
n 受信者の存在を確認しません。これは省略時値です。
f 受信者の存在を確認します。IE/EX サービスが受信者の存在を知らせることができない場合でも（たとえば受信者が別の IE システムにいる）データは送信されます。

無効な宛先の確認を要求した場合、IE/EX メッセージ課金を受けます。有効な宛先または確認できない宛先の確認を要求した場合には、メッセージ課金は受けません。検証に失敗すると、メッセージは送信されません。

description 送信ファイルのフリー・フォーマット記述。1-79 文字の英数字を使ってください。この記述は、CDH をサポートしている受信インターフェースにだけ利用可能です。CDH の詳細については、Programming Guide の “ Comon data header ” を参照してください。

retain メールボックスからの受信が行なわれない場合に、IE/EX がメールボックスにファイルを保持する日数を表します。保管期間の最大日数と省略時値は、それぞれの IE/EX システムによって異なります。一般に保管期間の省略時値は 30 日です。これらの値に関する詳細は、弊社 EDI 販売担当員にお問い合わせください。有効な値はブランクか 0-180 です。
 ユーザーが 0 またはブランクを指定すると、省略時値になります。

注：現在、< I E / E X > < 国際 I E > とともに最高期間は、30 日までです。

compress ファイル圧縮を使用する際に指定します。

n 圧縮をしない。（省略時値）
y 圧縮する。
t 送信者、受信者のペアの間で、CPLOOK テーブルで示された COMPRESS パラメータ設定を使用する。
v [MVS] 送信者、受信者のペアの間で、CPLOOK テーブルで示された COMPRESS パラメータ設定を使用する。両者間で設定が合っていない場合は OUTMSG ファイルに警告はできません。また、その場合、送信者の設定で送信されます。

圧縮を行うためには圧縮ソフトが必要です。
 このコマンドのパラメータのいくつかは使用できないことがあります。詳細は、Programming Guide の “ Using data compression ” を参照してください。

注：現在日本では COMPRESS を取り扱っていません。

SENDSTREAM

selectrcv 受信条件を特定しなければ受信出来ないようにするかを指定します。

- f 受信条件を特定しなければ受信できません。
- n 特定せず、全てを受信することが出来ます。(省略時)

fを指定した場合、送信されたファイルは特定しなければ受信できません。
このファイルを受信したい場合、次のいずれかを指定しなければなりません。

- **Sender ID(accountID and user ID)**
- **Message class**
- **Message key**

SESSIONINFOコマンド (MVS, 400)

SESSIONINFO コマンドを使って、IE/EX セッションに関する情報を得ます。SESSIONINFO コマンドの結果として、SESSIONRESP レコードを応答ファイルに入れます。これは IE/EX セッション情報を含んでいます。

SESSIONINFO コマンドには、パラメーターはありません。以下のように入力してください。

```
sessioninfo;
```

START

STARTコマンド (WIN, AIX, MVS, 400)

START コマンドは、IE/EX セッションを開始するのに使用します。START コマンドに対応するメッセージ応答レコードは、RETURN レコードです。

START コマンドの構文例を以下に示します。

start

account(IE/EX account)

userid(IE/EX user ID)

iepassword(IE/EX password)

niepassword(new IE/EX password)

check(y|n);

注：プロファイル・コマンドで AUTOSTART を指定して自動的に IE/EX セッションを開始させる場合は、メッセージ・コマンドで START を指定する必要はありません。メッセージ・コマンドで START を指定して、プロファイル・コマンドで AUTOSTART 値に y を指定すると、エラーが発生します。

account	IE/EX ユーザーの顧客コードを表します。USERID パラメーターとともにこのフィールドを使って、ユーザーを指定します。ACCOUNT パラメーターを指定する場合は、USERID パラメーターも指定しなければなりません。ACCOUNT パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。省略時値は IDENTIFY コマンドの IEACCOUNT です。
userid	IE/EX ユーザーのユーザーID を表します。ACCOUNT パラメーターとともにこのパラメーターを使って、ユーザーを指定します。USERID パラメーターを指定する場合は、ACCOUNT パラメーターも指定しなければなりません。USERID パラメーターは、1-8 文字の英数字で指定します。省略時値は IDENTIFY コマンドの IEUSERID です。
iepassword	IE/EX パスワードを表します。1-8 文字の英数字で指定します。省略時値は IDENTIFY コマンドの IEPASSWORD です。
niepassword	新しい IE/EX パスワードを表します。この値を指定すると、次回の IE/EX セッションが終了した時点で IE/EX パスワードが変更されます。IE/EX セッションがエラーで終了すると、パスワードは変更されません。1-8 文字の英数字で指定します。

check

前セッションの状況をチェックしたいときに指定します。CHECK パラメーターを指定する場合は、END コマンド以外のコマンドは指定しないでください。CHECK パラメーターは、あくまでも、前セッションの状況をチェックするのが目的のパラメーターです。前セッションの状況は、STARTED レコードに戻ります。

- y 前セッションの状況をチェックします。
- n 前セッションの状況をチェックしません。通常のセッション・スタートをします。省略時値です。

TESTMSG

TESTMSGコマンド (MVS, 400)

TESTMSG コマンドは、IE/EX に1つまたは複数のメッセージをメールボックスに蓄積するように指示します。テスト・メッセージは、顧客コード*SYSTEM*とユーザーID*TSTMSG*で取れます。テスト・メッセージを受信するには、RECEIVE コマンドで、この顧客コードとユーザーIDを指定しなければなりません。顧客コードとユーザーIDを指定していない場合には、テスト・メッセージを受け取ることはできません。

TESTMSG コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
testmsg  
startmsg(0|1|2|3|4|5)  
endmsg(0|1|2|3|4|5);
```

startmsg	メールボックスに入れなければならない最初のテスト・メッセージの番号。 このパラメーターは、必須です。
0	テスト・メッセージに 0-9 の数値を蓄積します。
1	テスト・メッセージに大文字の英字を蓄積します。
2	テスト・メッセージに小文字の英字を蓄積します。
3	テスト・メッセージに、大文字の英字を伴った数値を、次に小文字の英字を伴った数値を蓄積します。
4	テスト・メッセージに、特殊の文字を蓄積します。
5	256 文字すべてを昇順に蓄積します。
endmsg	メールボックスに入れなければならない最後のテスト・メッセージの番号。有効な番号は、STARTMSGパラメーターのところで説明されています。ENDMSG は、STARTMSG 以上か同等でなければなりません。STARTMSG と ENDMSG が同じ場合、1つのメッセージを蓄積します。このパラメーターは必須です。

